



# 東北広域観光の取組について

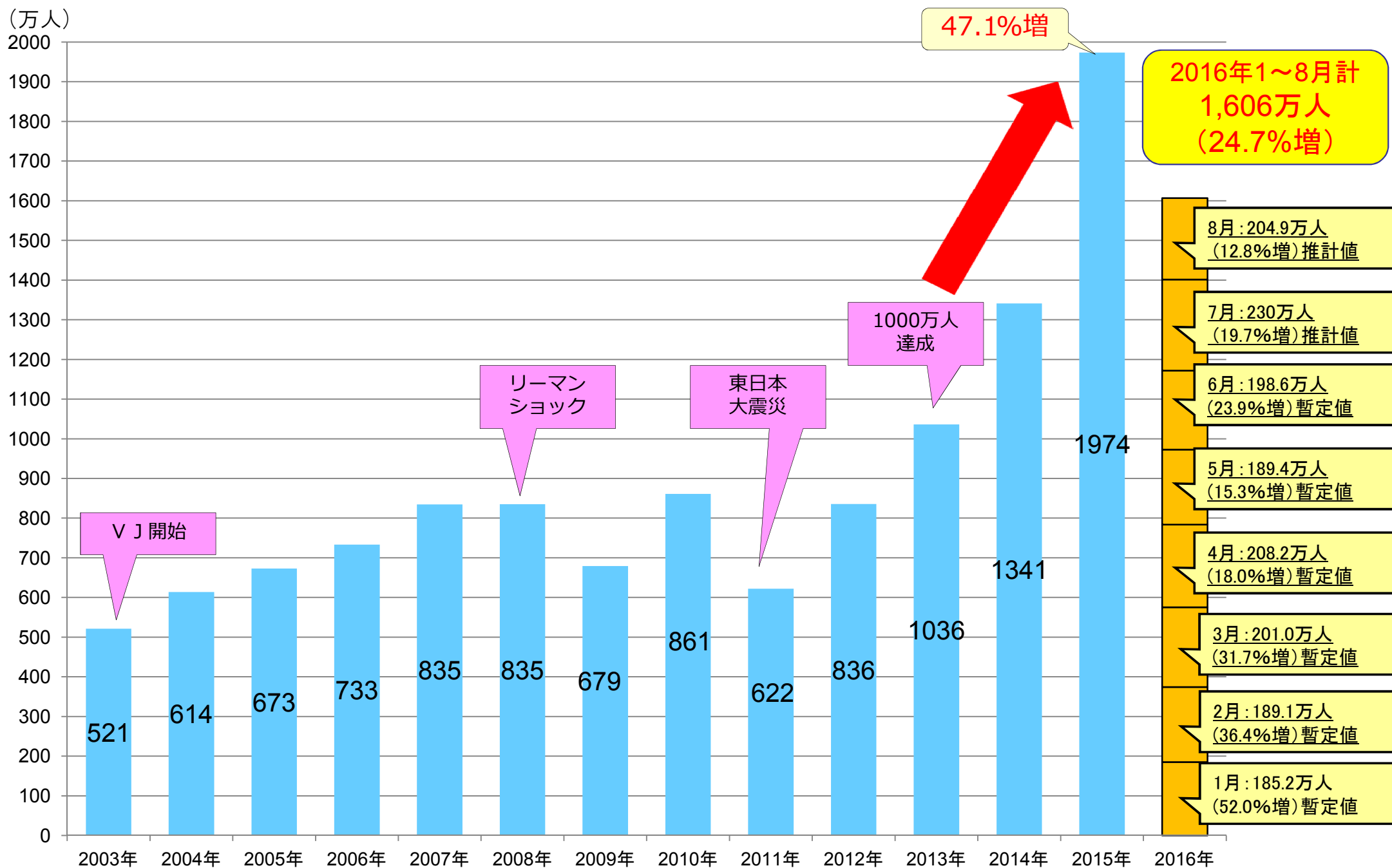
---

平成28年10月18日

東北運輸局観光部

# I 観光の現状

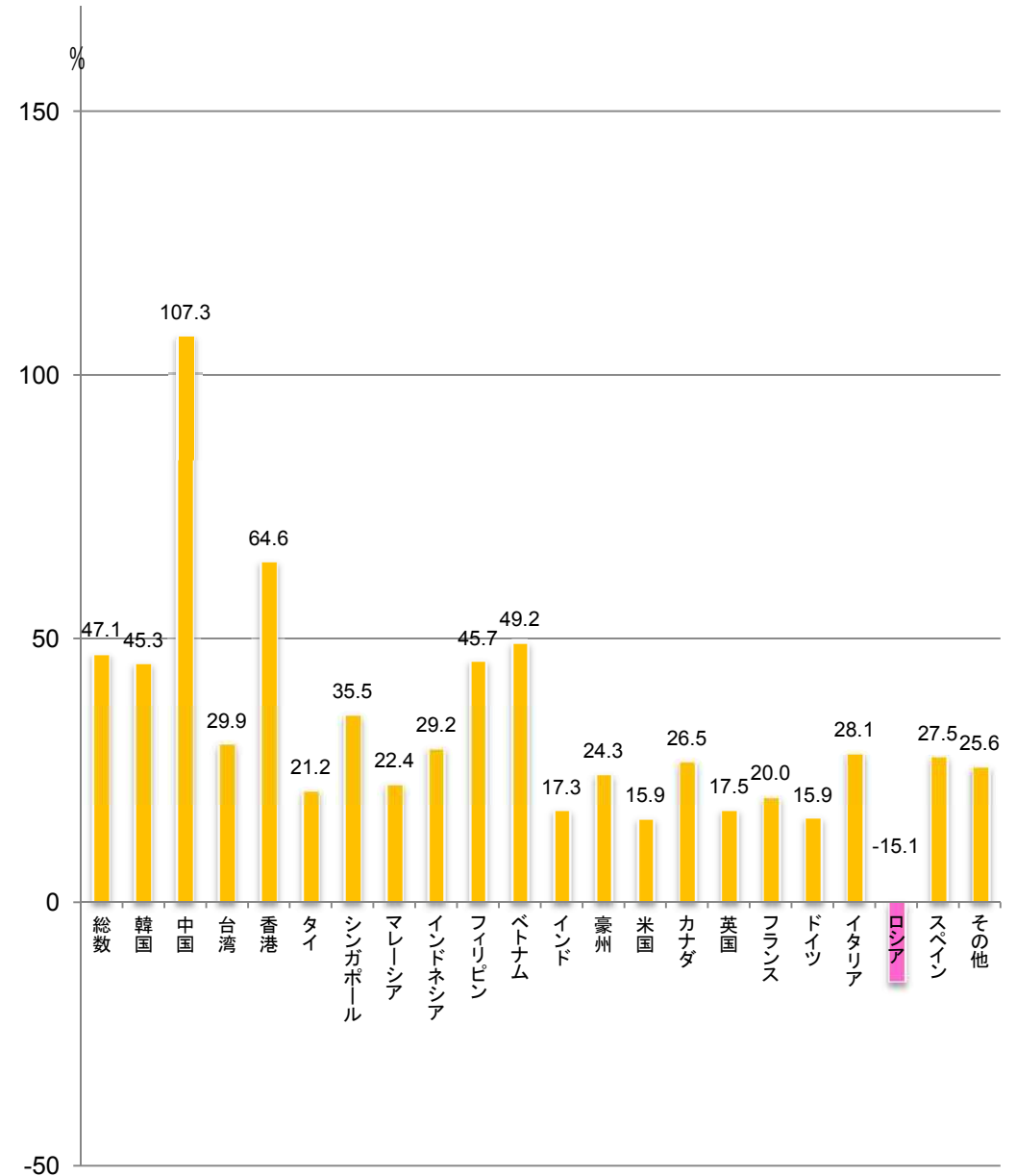
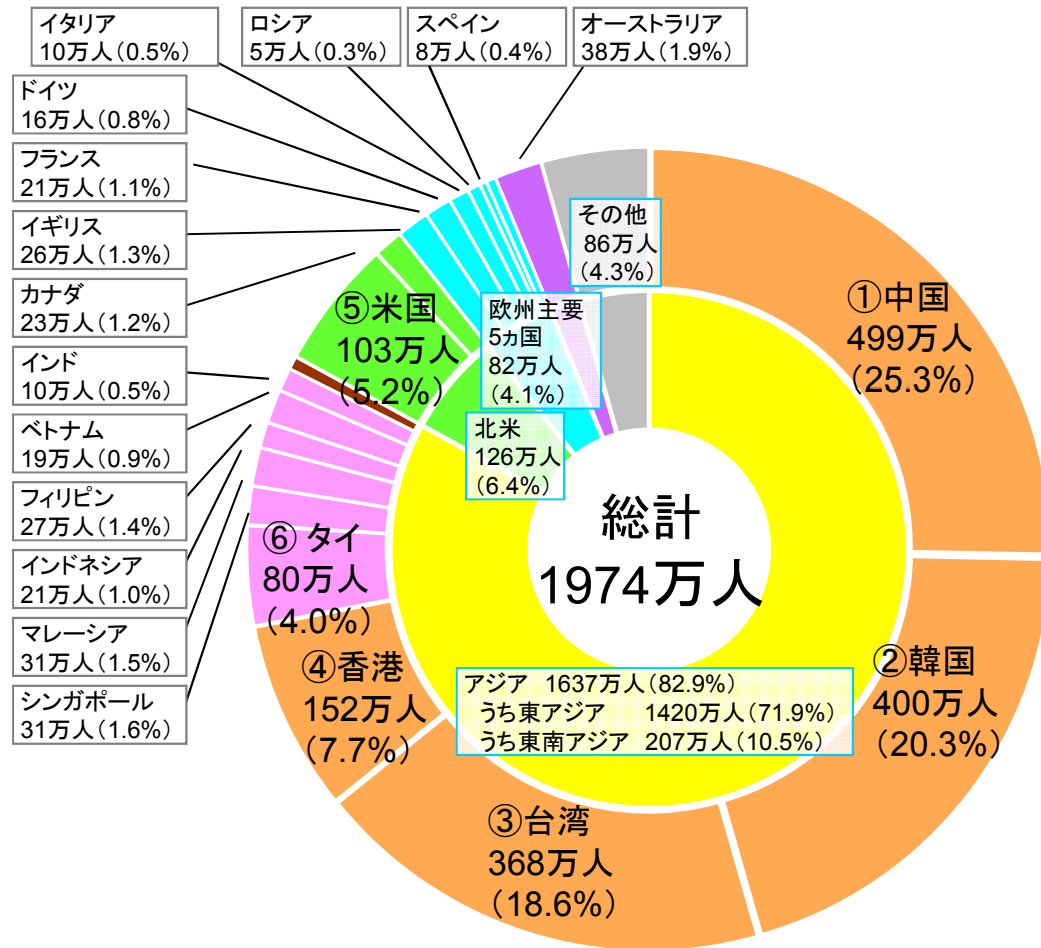
# 訪日外国人旅行者数の推移



# 訪日外国人旅行者数及び割合(国・地域別)

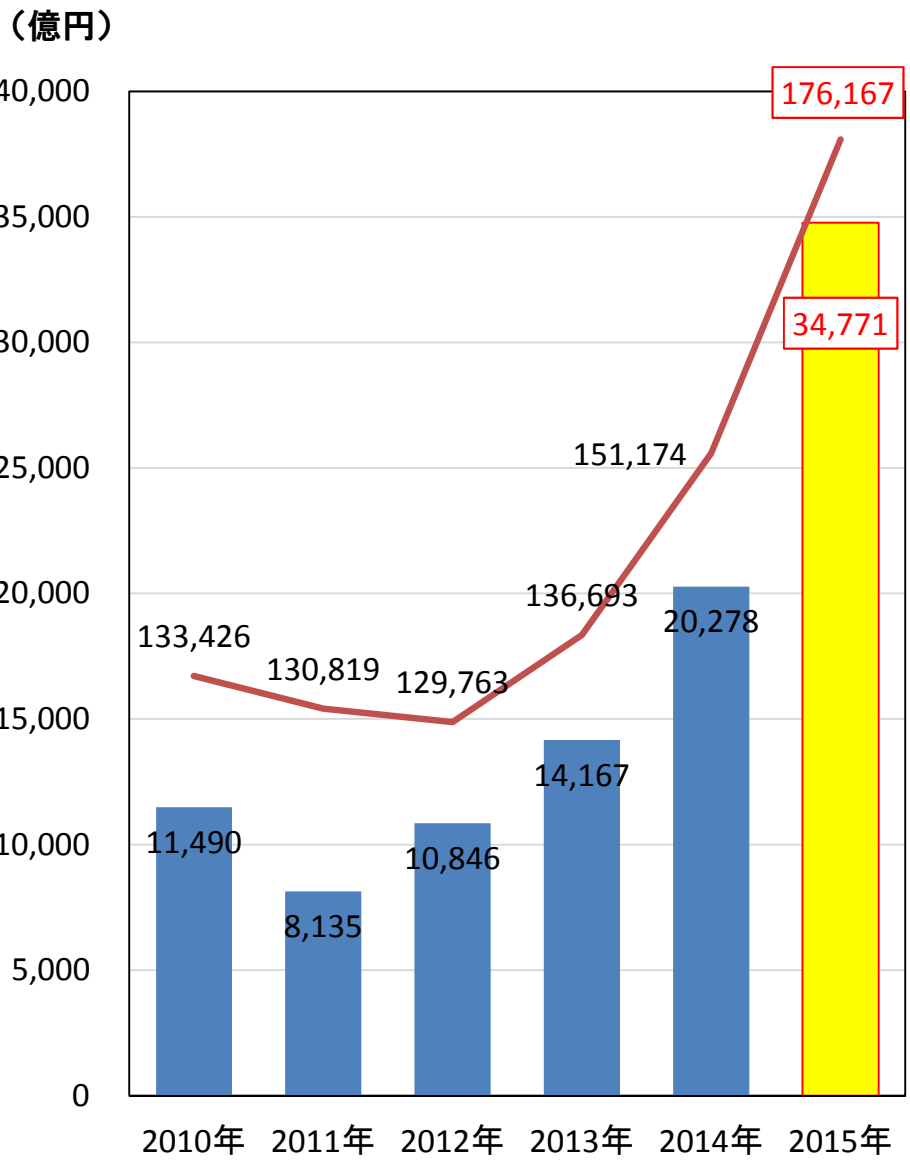
## 2015年訪日外国人旅行者数及び割合(暫定値)

## 市場別増減率(2015年の前年同期比)



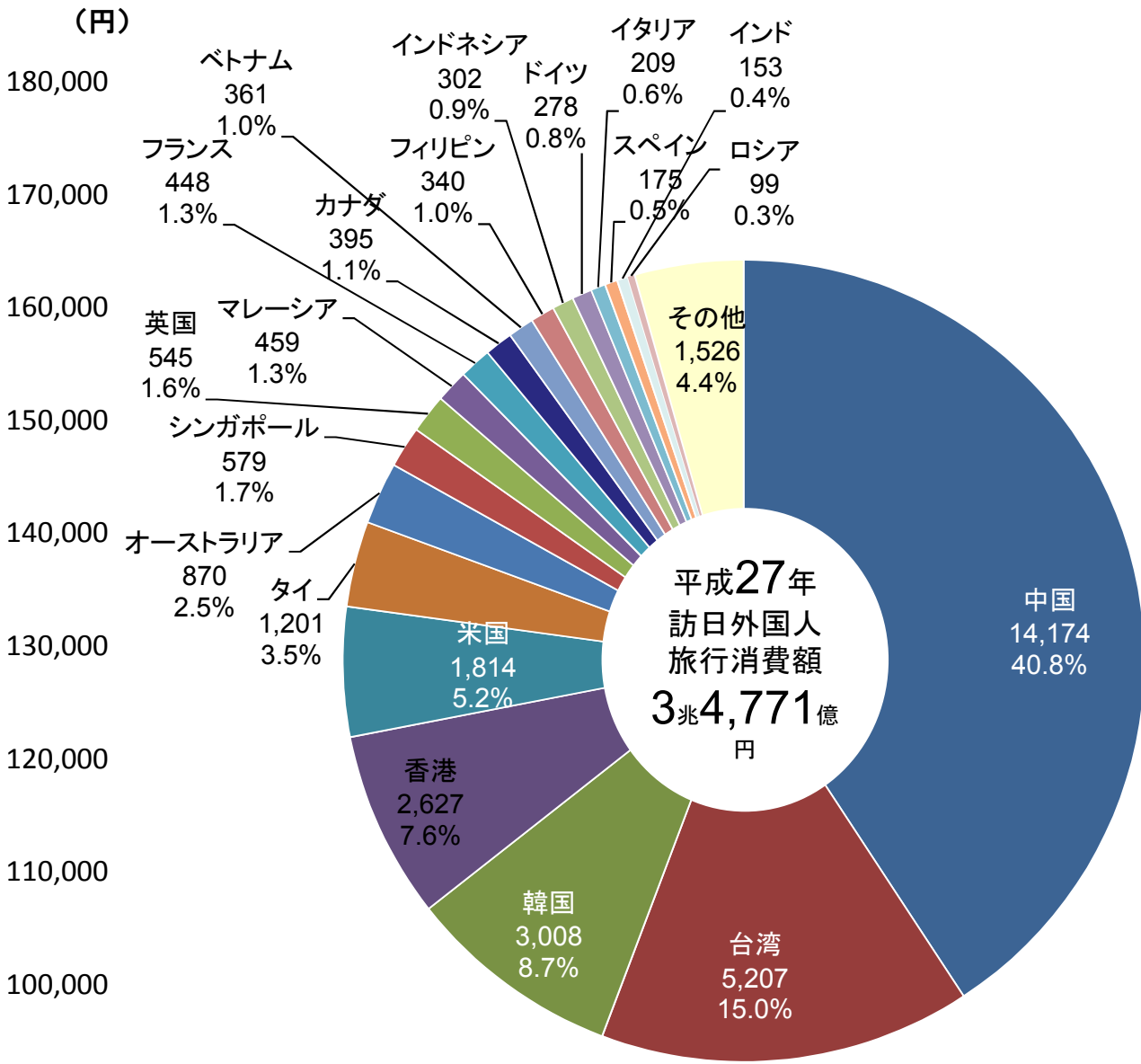
# 2015年の訪日外国人旅行消費額(確報値)

## 年間の旅行消費額と1人当たり旅行支出の推移



■ 旅行消費額 (億円) ・ 左目盛  
 — 1人当たり旅行支出額 (円/人) ・ 右目盛

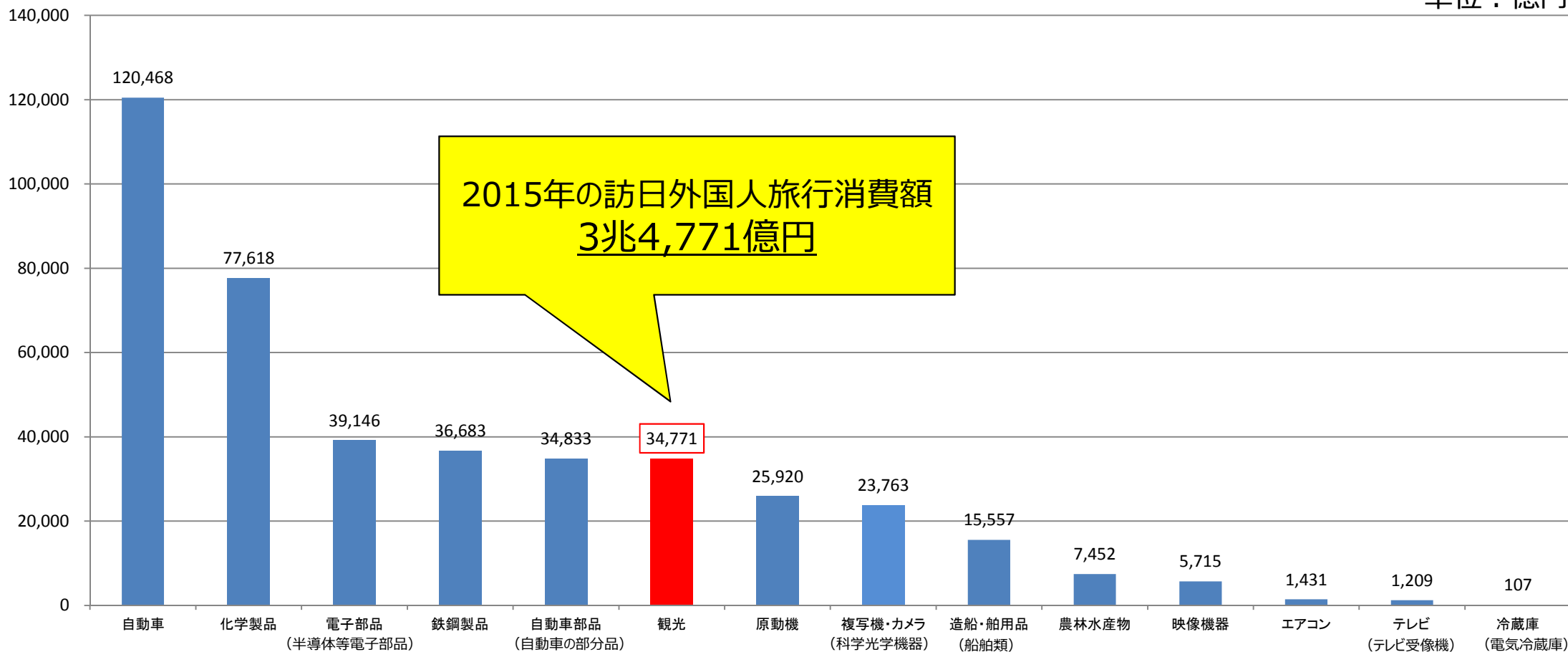
## 国籍・地域別の訪日外国人旅行消費額と構成比



# 訪日外国人旅行消費額の製品別輸出額との比較(2015年)

○2015年の訪日外国人旅行消費額は3兆4,771億円で、自動車部品の輸出額に近い水準となっている。

単位：億円



2015年の訪日外国人旅行消費額  
3兆4,771億円

※観光、造船・舶用品および農林水産物以外の各製品の金額は貿易統計（財務省）輸出確報より算出。  
 ※造船・舶用品以外の金額は2015年の値（農林水産物は速報値）。  
 ※造船・舶用品の金額は2013年の値で、海事局データより算出。  
 ※農林水産物の金額は農林水産省公表値。  
 ※映像機器にはテレビの輸出額を含む。  
 ※カッコ内に記載の品名は、貿易統計における品名を示す。

# 費目別訪日外国人旅行消費額(2015年)

○2015年の訪日外国人旅行消費額のうち、買物代は4割、宿泊費は3割弱を占める。  
 ○費目別・国別では宿泊費・飲食費・交通費は平均宿泊数の多い欧米旅行者の支出が多く、一方で買物代は中国を初めとした東アジア・東南アジア旅行者の支出が多い。

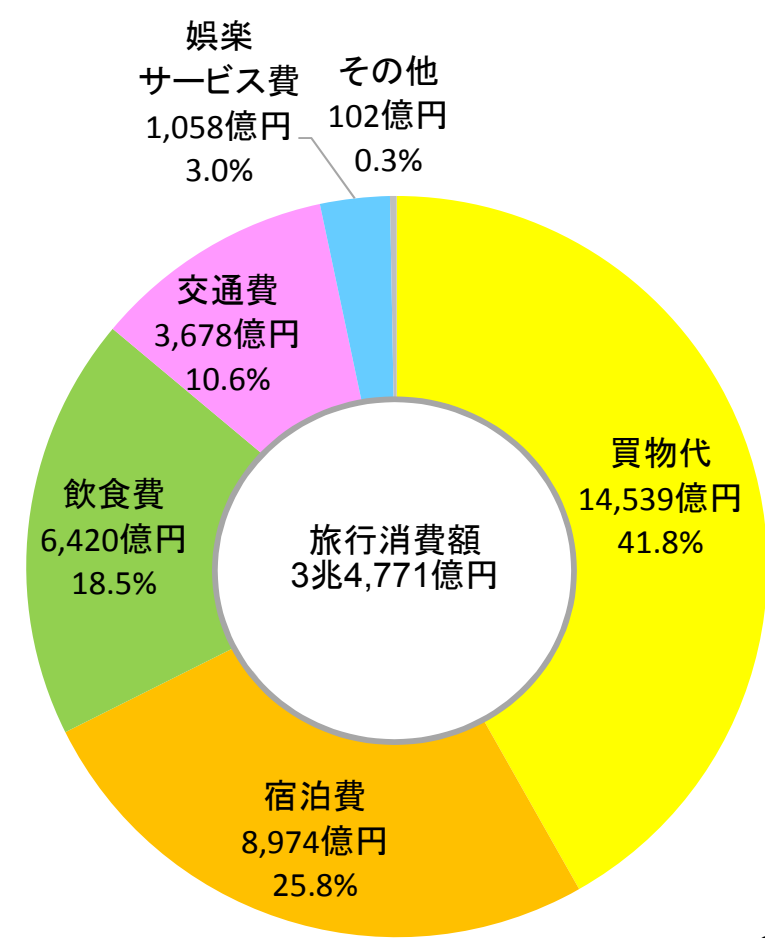
【費目別旅行支出】

国籍・地域	旅行支出 総額	宿泊費	飲食費	交通費	娯楽 サービス 費	買物代	その他
全国籍・地域	176,167	45,465	32,528	18,634	5,359	73,662	518
韓国	75,169	22,495	18,203	8,421	3,306	22,195	549
台湾	141,620	36,048	25,794	15,286	4,965	59,500	28
香港	172,356	42,165	35,439	17,203	4,752	72,145	652
中国	283,842	50,116	42,307	21,908	6,308	161,973	1,230
タイ	150,679	41,653	28,751	20,363	5,817	53,694	400
シンガポール	187,383	63,677	38,761	20,524	3,968	60,415	39
マレーシア	150,423	44,737	32,477	17,506	6,242	49,454	7
インドネシア	147,149	50,840	27,734	24,327	3,889	40,338	20
フィリピン	126,567	36,403	27,379	14,510	5,411	42,809	55
ベトナム	194,840	50,360	41,368	21,889	5,642	75,164	416
インド	148,340	58,847	36,729	19,080	2,266	31,255	162
英国	210,681	97,220	46,367	29,667	6,188	31,239	0
ドイツ	171,031	69,160	35,072	34,755	7,783	24,262	0
フランス	209,333	84,677	41,704	36,968	9,169	36,760	55
イタリア	202,077	78,102	49,158	38,393	5,614	30,680	131
スペイン	227,288	84,472	51,629	45,109	8,424	37,654	0
ロシア	182,484	59,267	34,689	24,538	8,193	54,270	1,527
米国	175,554	74,017	40,889	25,465	5,883	29,247	53
カナダ	170,696	60,886	36,387	31,107	8,652	33,635	30
オーストラリア	231,349	91,177	52,927	36,338	14,079	36,605	224
その他	178,179	71,163	36,909	25,982	5,110	38,908	108

(円/人) 【平均泊数】 (泊)

全目的	観光・ レジャー
10.2	5.9
5.2	3.3
6.4	5.0
5.9	5.5
12.7	5.9
11.1	6.1
9.0	7.9
12.3	6.6
17.2	7.1
27.9	9.6
37.7	6.7
27.0	12.1
12.8	11.5
12.1	14.1
14.8	13.8
13.8	12.0
15.4	12.6
21.3	12.0
14.7	9.5
12.4	11.8
12.6	12.3
16.6	12.1

## 2015年 費目別旅行消費額

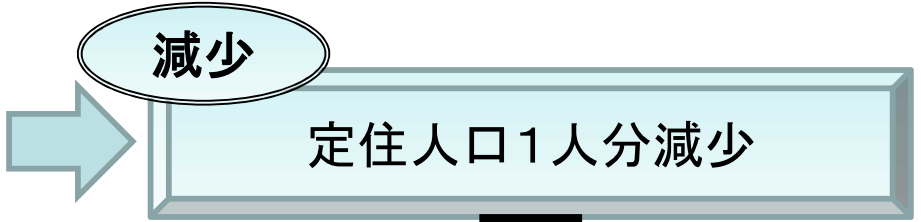


出典: 観光庁「訪日外国人消費動向調査」

# 観光交流人口増大の経済効果(2015年)

○定住人口1人当たりの年間消費額(125万円)は、旅行者の消費に換算すると外国人旅行者8人分、国内旅行者(宿泊)25人分、国内旅行者(日帰り)80人分にあたる。

定住人口=1億2,711万人  
1人当たり年間消費額=125万円

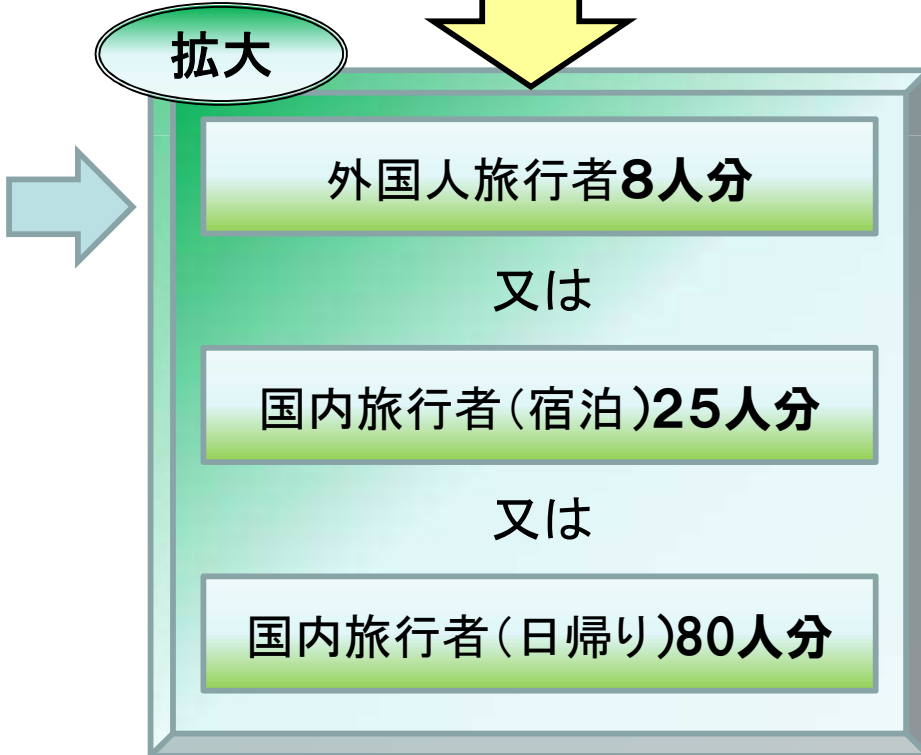


旅行消費額

訪日外国人旅行3.5兆円	国内旅行(海外分除く)20.4兆円
	うち宿泊旅行 15.8兆円
	うち日帰り旅行 4.6兆円

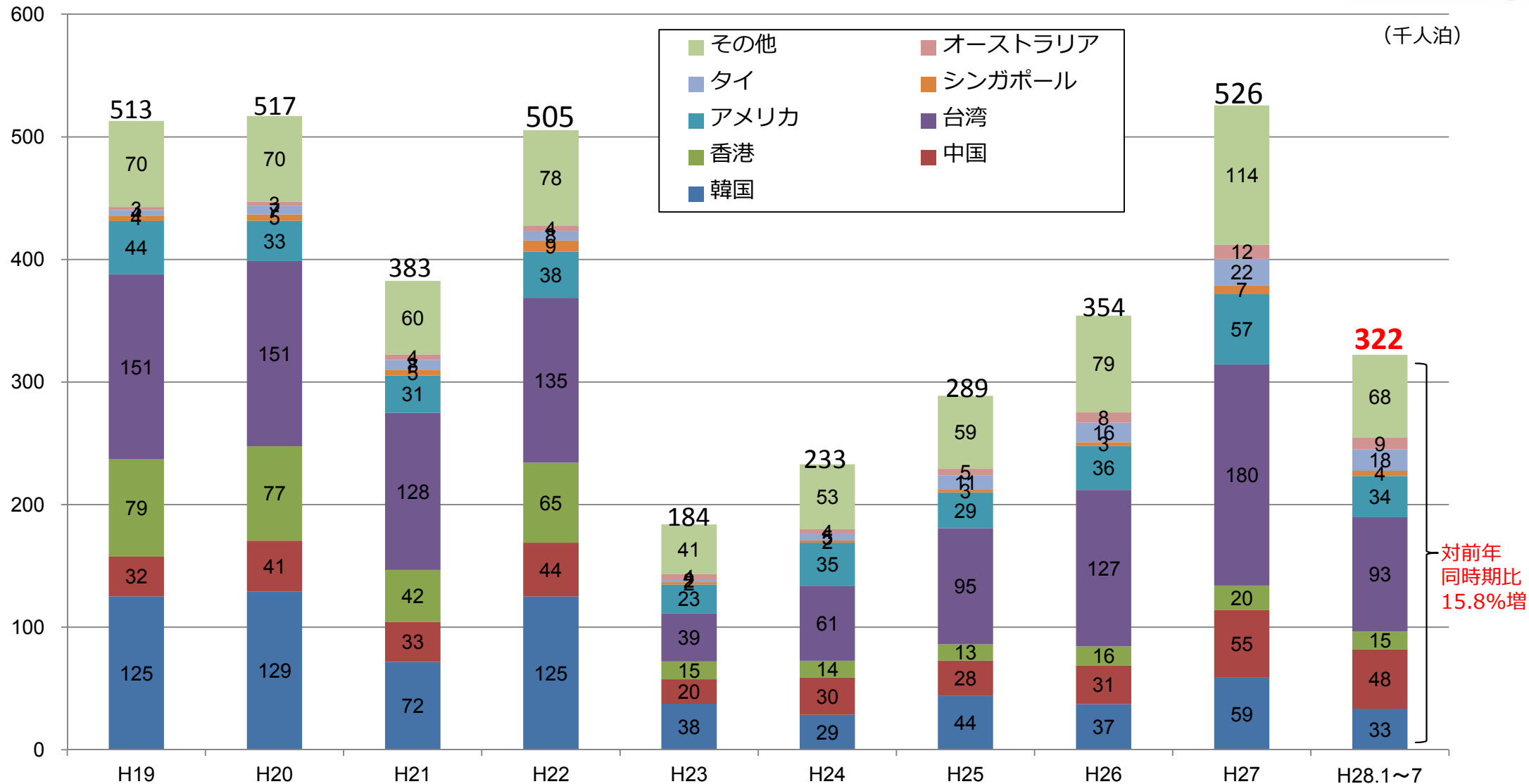
訪日外国人旅行者	国内旅行者(宿泊+日帰り)
1,974万人<延べ人数>	6億0,472万人<延べ人数>
	うち宿泊 3億2,199万人
	うち日帰り 2億9,173万人
1人1回当たり消費額 17万6,167円	1人1回当たり消費額 宿泊 5万0,520円 日帰り 1万5,758円



定住人口は2015年国勢調査(総務省)、定住人口1人当たり年間消費額は2015年家計調査(総務省)による。  
旅行消費額の訪日外国人旅行は訪日外国人消費動向調査(2015年)より算出、国内旅行は旅行・観光消費動向調査(2015年)より算出。  
訪日外国人旅行者はJNTO(2015年)発表数値、国内旅行者は旅行・観光消費動向調査(2015年)より算出。  
訪日外国人旅行者1人1回当たり消費額は訪日外国人消費動向調査(2015年)、国内旅行者(宿泊/日帰り)1人1回当たり消費額は旅行・観光消費動向調査(2015年)より算出。  
定住人口1人減少分に相当する旅行者人数は、定住人口1人当たり年間消費額を訪日外国人旅行者又は国内旅行者1人1回当たり消費額で除したものである。(※観光庁資料)



# 東北地域の市場別延べ宿泊人数の推移



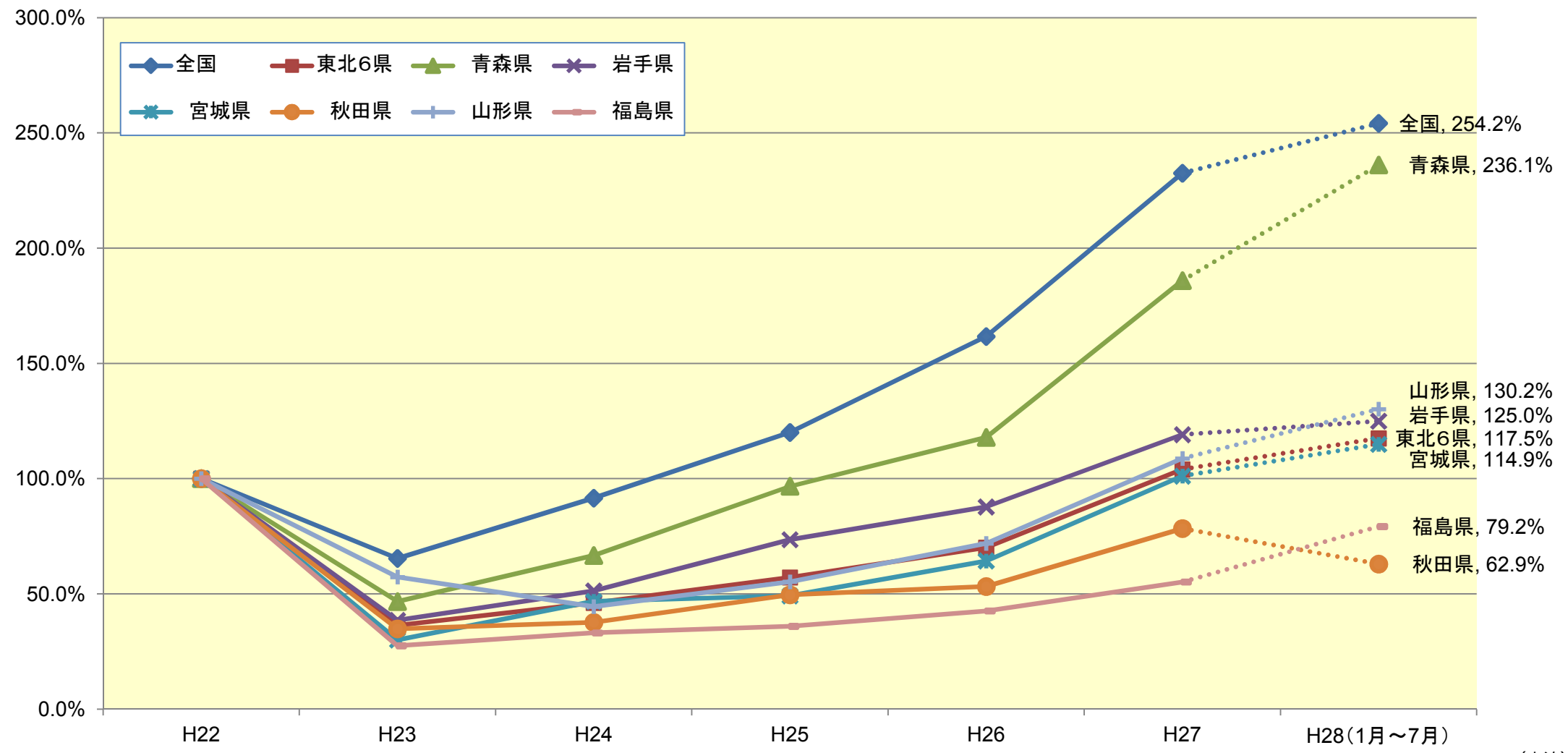
※従業員数10人以上の施設における延べ宿泊者数（日本全国の平成27年の値は6,051万人泊）。※平成28年の数値は速報値。※観光庁「宿泊旅行統計」より

## 国別回復状況(平成22年から平成27年の伸率)

韓国	中国	香港	台湾	アメリカ	シンガポール	タイ	オーストラリア	その他	総数
-53%	26%	-69%	34%	53%	-24%	180%	182%	45%	4%

# 東北地域の外国人宿泊者数の推移(県別)

(平成22年を100とした場合の指数)



宮城県(国別)	韓国	中国	香港	台湾	アメリカ	タイ	オーストラリア	その他	総数
平成22年	16,530	13,890	27,210	38,050	14,870	4,990	1,640	42,310	159,490
平成27年	8,670 (52.5%)	19,870 (143.1%)	4,170 (15.3%)	48,760 (128.1%)	19,190 (129.1%)	9,800 (196.4%)	2,550 (155.5%)	48,240 (114%)	161,250 (101.1%)

※従業員数10人以上の施設における延べ宿泊者数(日本全国の平成27年の値は6,051万人泊)。※平成28年の数値は速報値。※観光庁「宿泊旅行統計」より

# 地方ブロック別外国人延べ宿泊者の国・地域別構成比(平成27年)

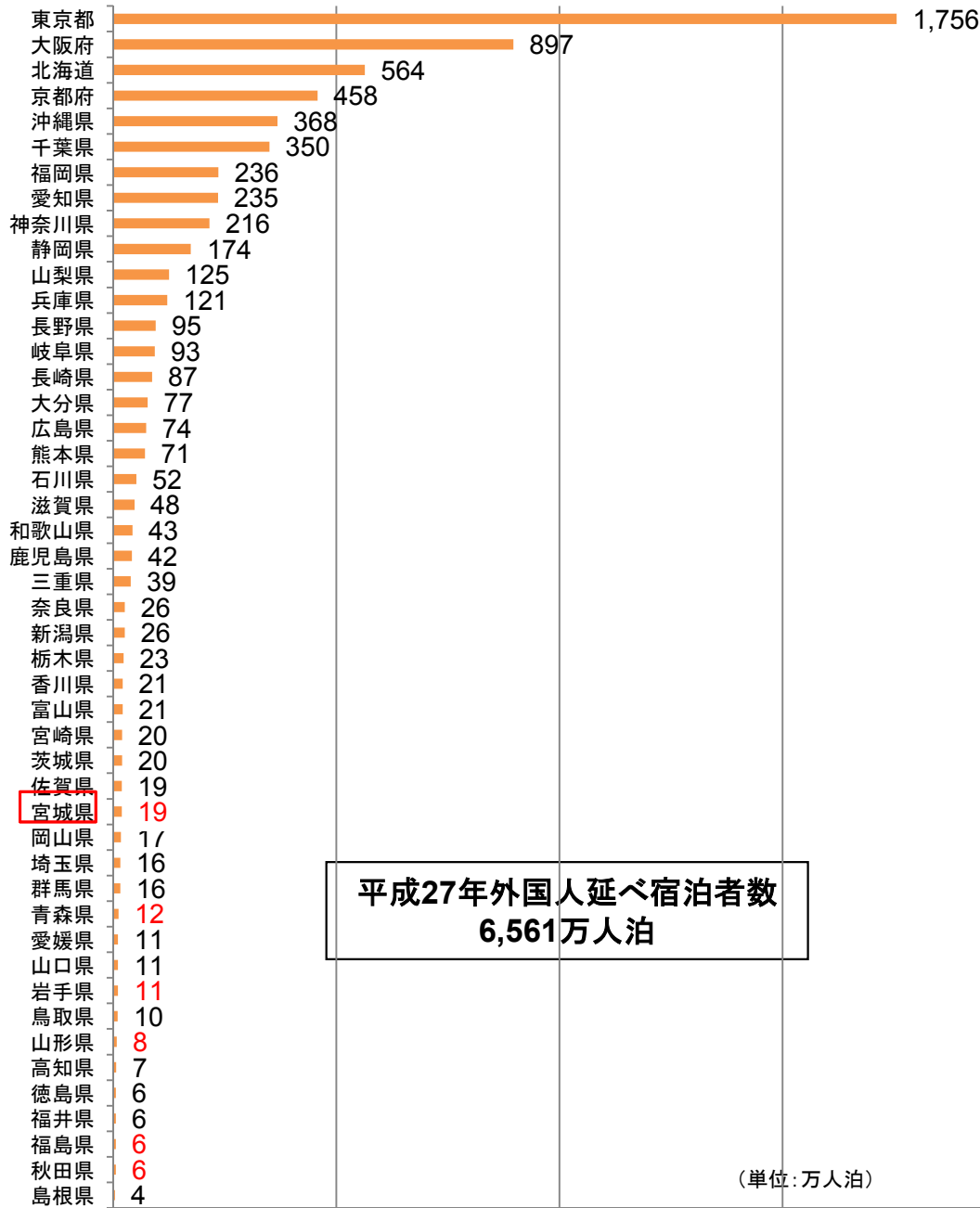


※観光庁「宿泊旅行統計」(確定値) ※欧州は、イギリス、イタリア、スペイン、ドイツ、フランスの5ヶ国の計。

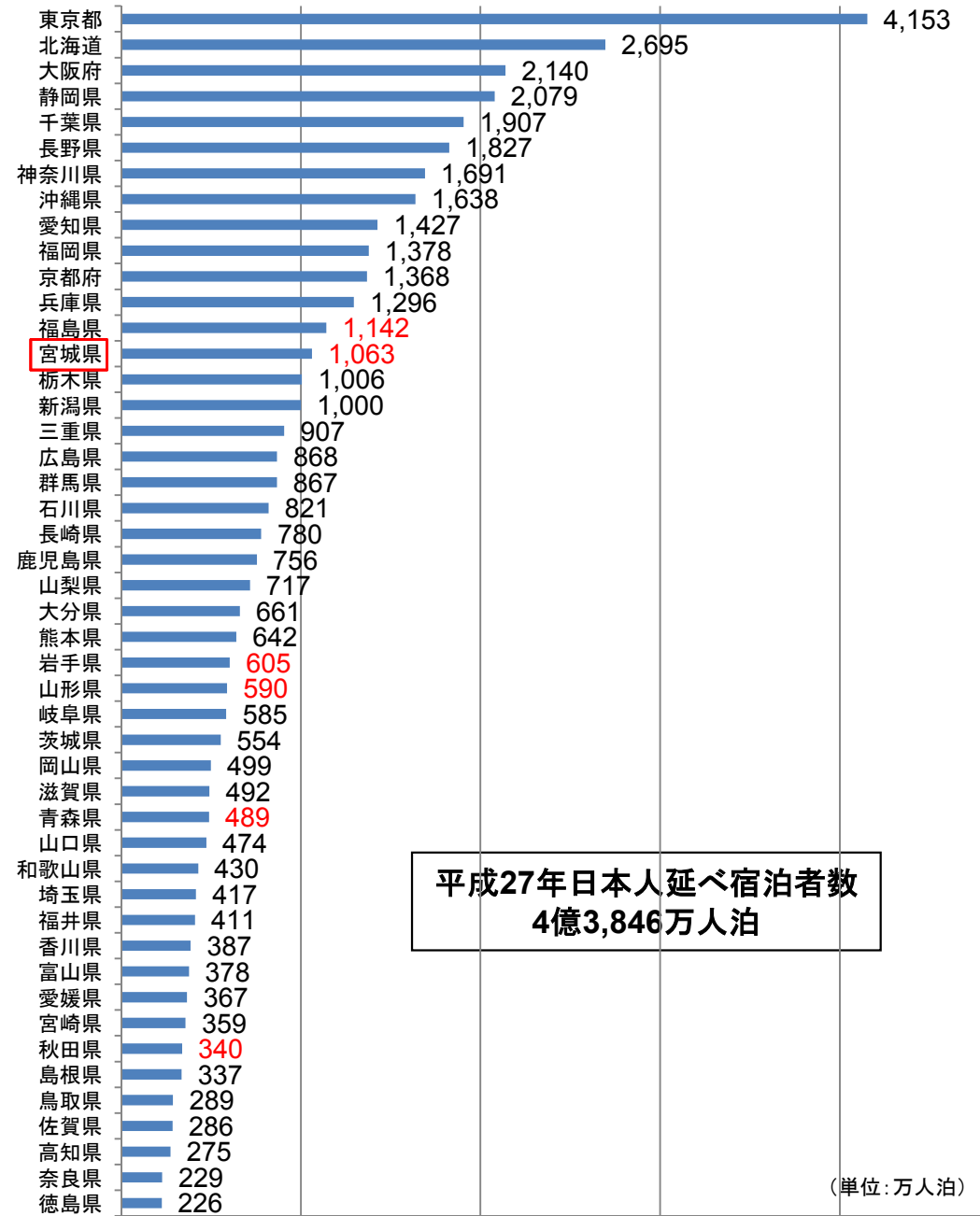
# 都道府県別日本人・外国人延べ宿泊者数(平成27年)



## 都道府県別 外国人延べ宿泊者数

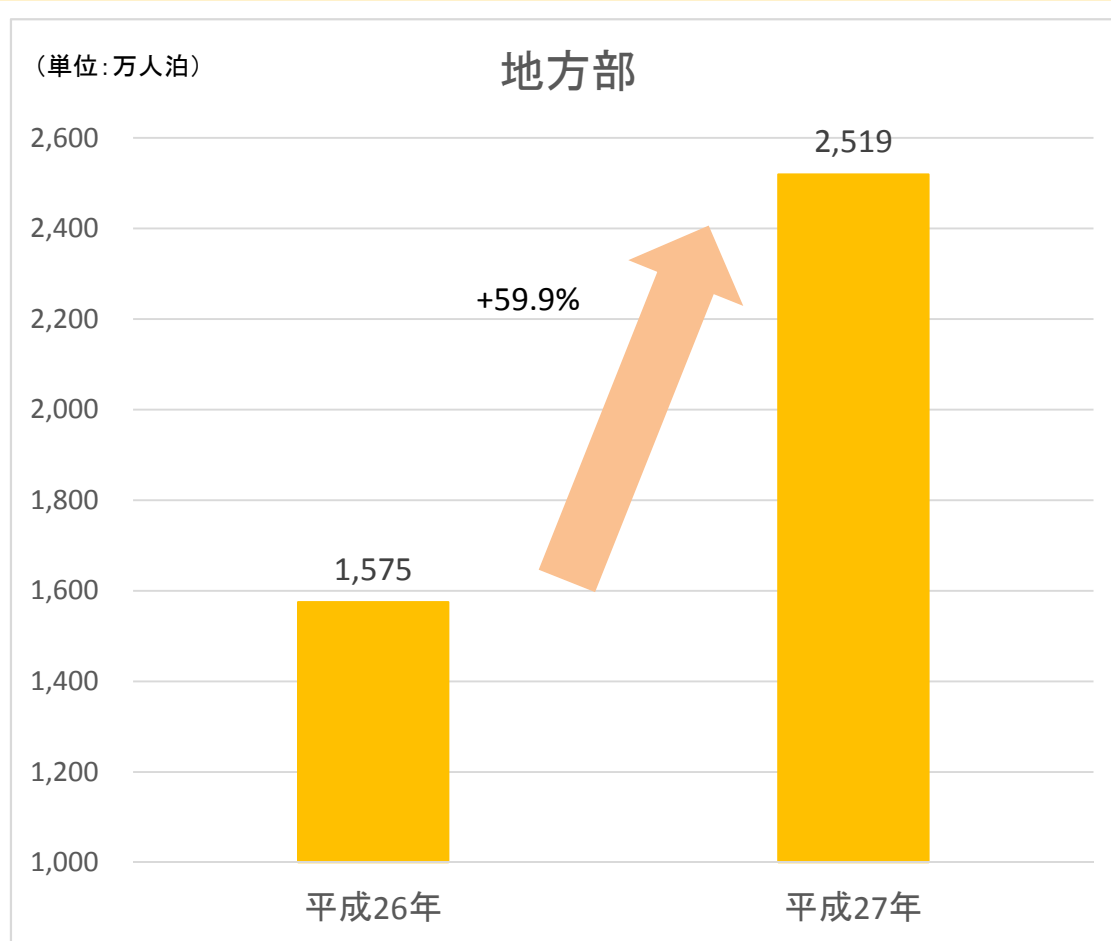
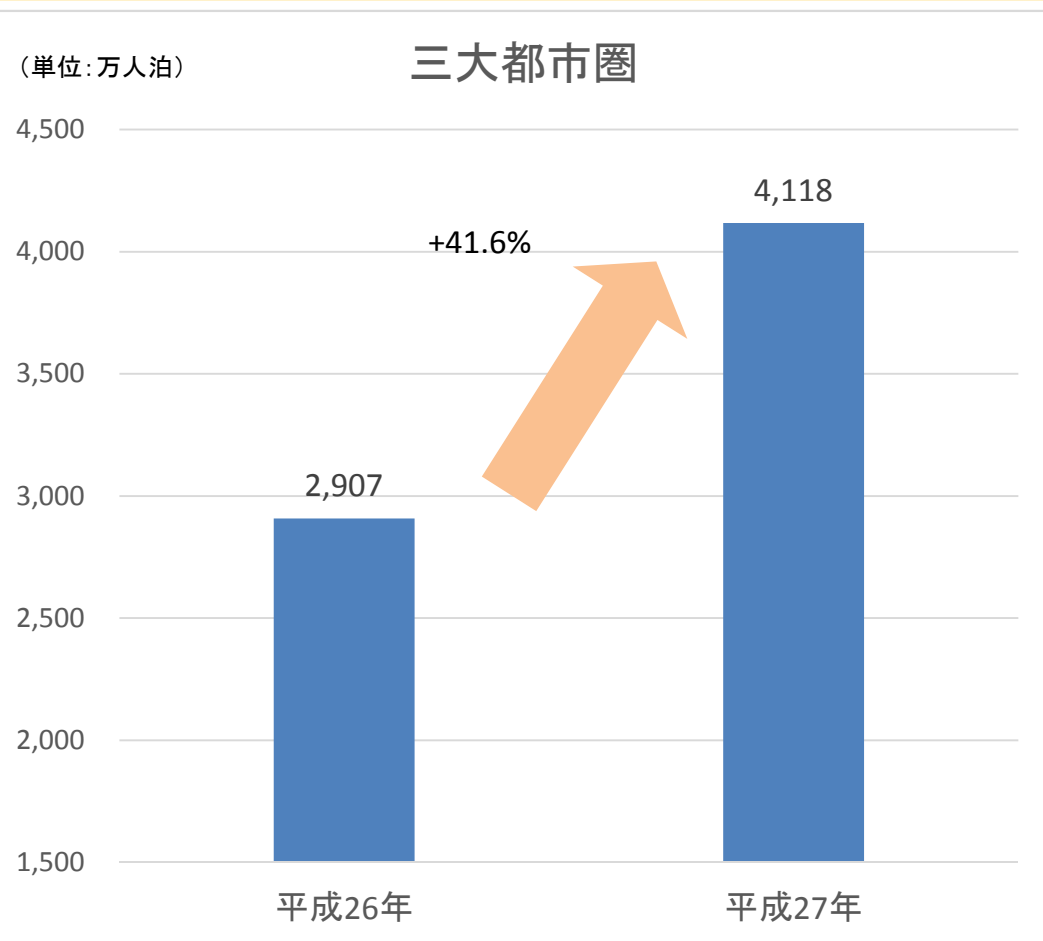


## 都道府県別 日本人延べ宿泊者数



## ◇ 三大都市圏及び地方部における外国人延べ宿泊者数比較

- 平成27年における三大都市圏と地方部(※)の外国人延べ宿泊者数の対前年比を比較すると、三大都市圏で+41.6%、地方部で+59.9と、地方部の伸びが三大都市圏の伸びを上回っている。
- 外国人延べ宿泊者数が前年比で2倍以上となった県は5県(静岡県、佐賀県、茨城県、三重県及び滋賀県)。



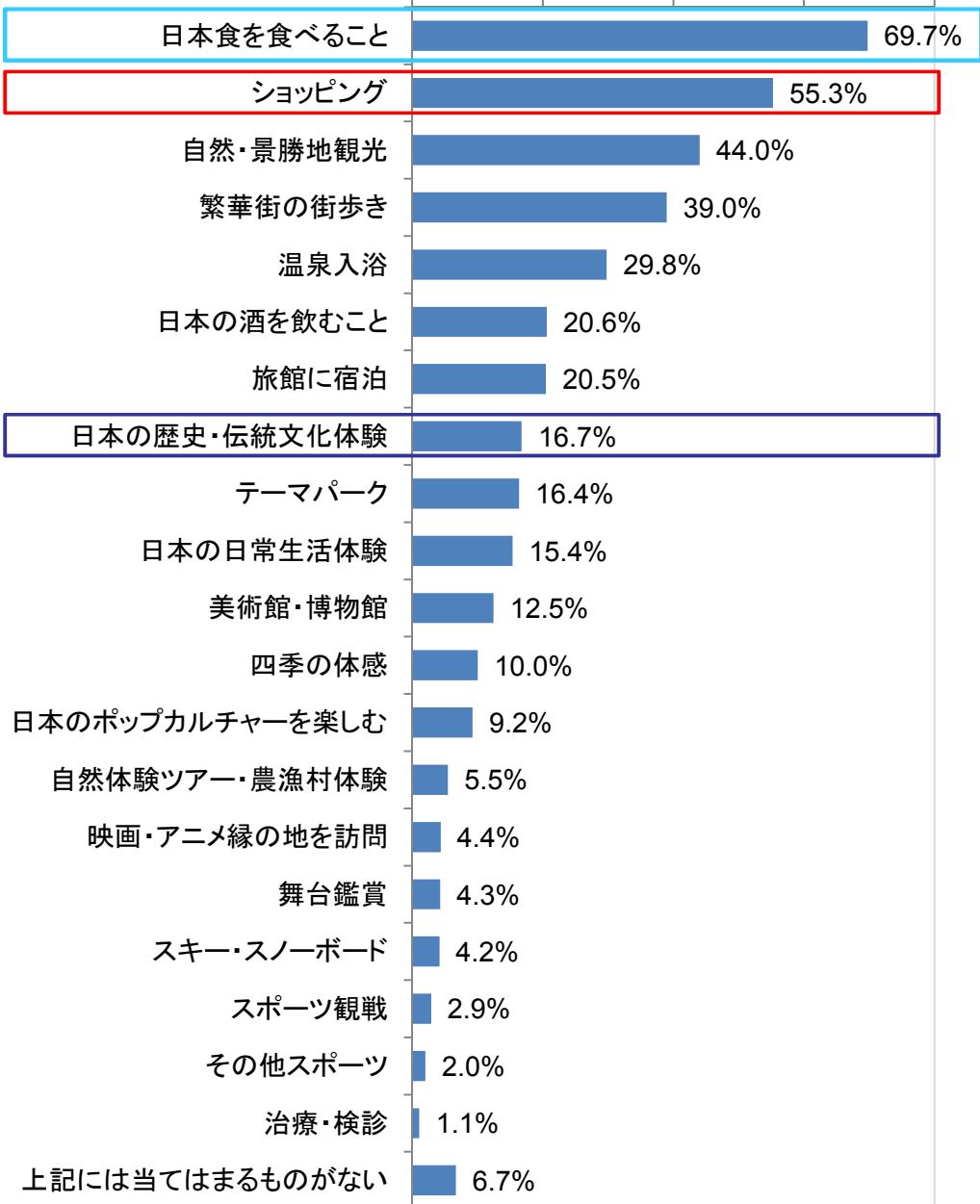
(※)三大都市圏とは、「東京、神奈川、千葉、埼玉、愛知、大阪、京都、兵庫」の都府県をいう。地方部とは、三大都市圏以外の道県をいう。

# 拡大するインバウンド消費と変貌する産業・地域(訪日動機)

(図) 訪日前に期待していたこと (2015年(平成27年))

(単位: %)

0% 20% 40% 60% 80%

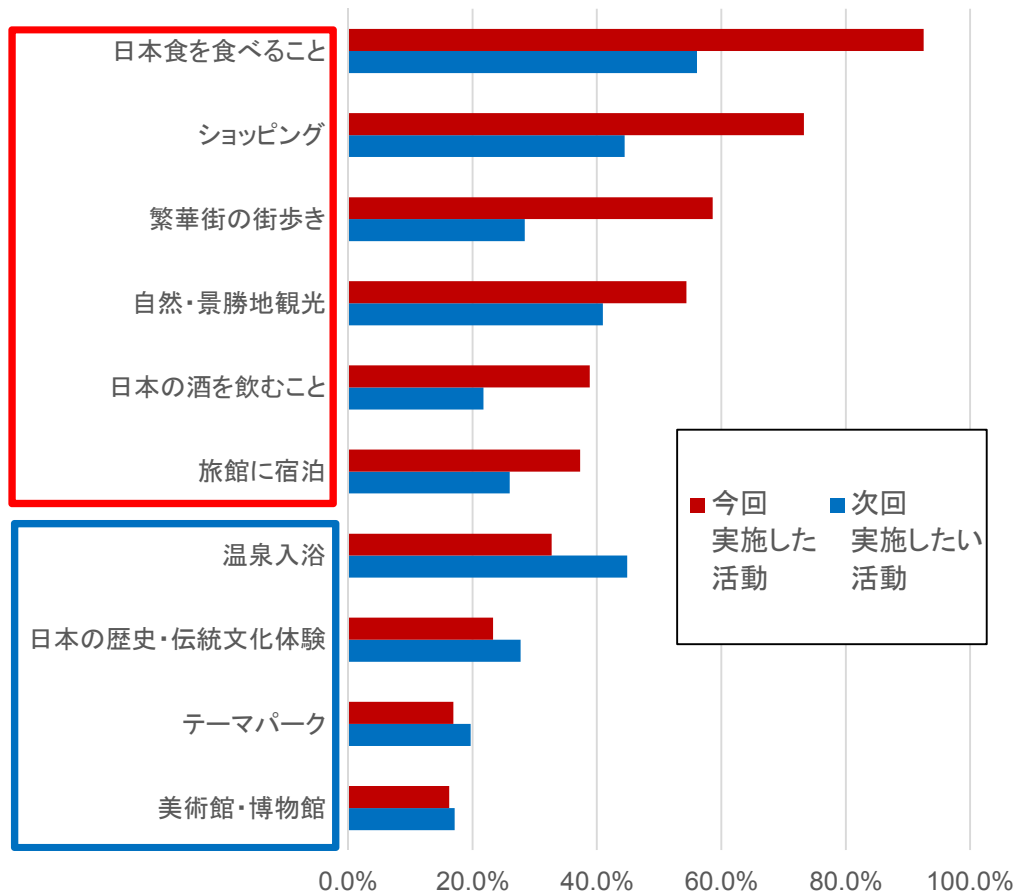


日本食を食べること		ショッピング		日本の歴史・伝統文化体験	
オーストラリア	81.2	香港	68.4	スペイン	44.7
イタリア	80.6	タイ	67.1	英国	39.4
フランス	80.3	中国	63.5	カナダ	38.8
スペイン	79.8	台湾	63.0	フランス	38.7
タイ	79.7	ベトナム	61.0	イタリア	38.0
フィリピン	78.5	マレーシア	57.4	米国	36.6
カナダ	78.2	シンガポール	55.0	オーストラリア	36.5
香港	77.7	フィリピン	54.1	ベトナム	30.2
ドイツ	77.0	インドネシア	51.6	ドイツ	29.5
米国	76.5	オーストラリア	49.9	ロシア	26.2
シンガポール	76.0	韓国	43.1	インドネシア	24.8
マレーシア	73.7	イタリア	42.9	タイ	24.5
英国	73.7	フランス	42.6	フィリピン	23.8
インドネシア	72.4	カナダ	42.4	シンガポール	22.3
ベトナム	71.5	ロシア	42.3	マレーシア	20.4
台湾	68.3	米国	37.7	インド	18.3
ロシア	66.7	インド	37.5	台湾	14.2
韓国	65.2	スペイン	35.0	中国	11.6
中国	63.9	ドイツ	32.1	香港	10.6
インド	52.7	英国	32.0	韓国	7.2
その他	79.8	その他	43.8	その他	36.1

■ 東アジア ■ 他のアジア(東南アジア等) ■ 欧米等

## 訪日外国人の関心事項

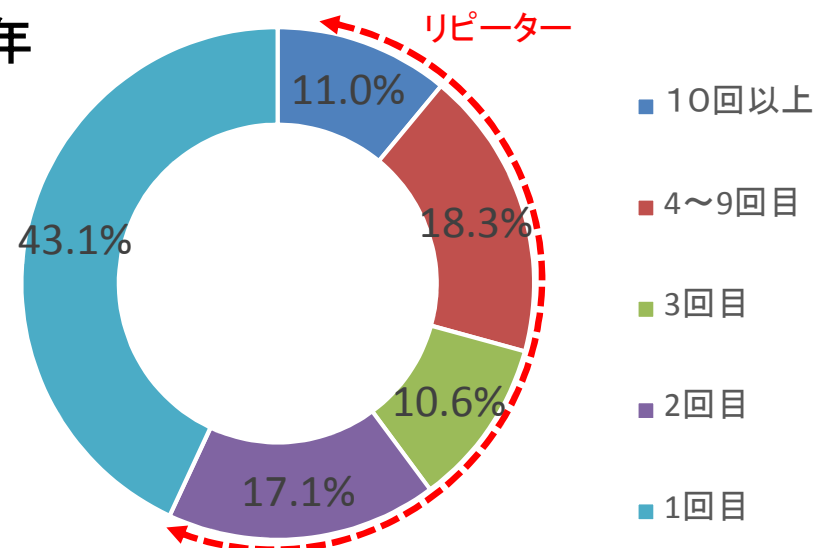
今回・次回の訪問時への関心事項が異なっているため、多様なニーズへの対応が今後は一層求められる



(出典) 平成26年訪日外国人消費動向調査 (観光庁)

## 訪日外国人の訪問回数(観光・レジャー目的)

2014年



【参考】 2014年 訪日外国人旅行者数 1,341万人

## 訪日外国人旅行者の形態(団体・FIT)

FIT率 8%増



## II 政府の取組等



## 明日の日本を支える観光ビジョン構想会議

訪日外国人旅行者数2000万人の目標達成が視野に入ってきたことを踏まえ、  
次の時代の新たな目標の設定とそのために必要な対応の検討を行う。

**本年3月30日 最終とりまとめ（新たな目標設定と必要な対応方策）**

【議長】 内閣総理大臣  
【副議長】 内閣官房長官、国土交通大臣  
【構成員】 副総理兼財務大臣、地方創生担当大臣、一億総活躍担当大臣、  
総務大臣、法務大臣、外務大臣、厚生労働大臣、経済産業大臣  
(民間有識者)  
石井 至 石井兄弟社（旅行ガイド出版社）社長  
井上 慎一 Peach Aviation（株）代表取締役CEO  
大西 雅之 鶴雅グループ代表  
小田 真弓 旅館 加賀屋 女将  
唐池 恒二 九州旅客鉄道（株）会長  
デービッド・アトキンソン 小西美術工藝社社長  
李 容淑 大阪国際大学客員教授



〈会議で挨拶する安倍内閣総理大臣〉



〈会議で発言する石井国土交通大臣〉

## 明日の日本を支える観光ビジョン構想会議 ワーキンググループ

【座長】 内閣官房長官 <開催実績> 第1回 12月1日 第5回 1月20日  
【座長代理】 国土交通大臣 第2回 12月7日 第6回 1月26日  
【構成員】 関係閣僚等 第3回 12月10日  
第4回 12月18日

## 今後の方向性

- 我が国は、自然・文化・気候・食という観光振興に必要な4つの条件を兼ね備えた、世界でも数少ない国の一つであり、これらの豊富な観光資源を真に開花させることにより、裾野の広い観光を一億総活躍の場とすることが可能。
- 観光は、まさに「地方創生」への切り札、GDP600兆円達成への成長戦略の柱。  
国を挙げて、観光を我が国の基幹産業へと成長させ  
「観光先進国」という新たな挑戦に踏み切る覚悟が必要。

## 安倍内閣3年間の成果

戦略的なビザ緩和、免税制度の拡充、出入国管理体制の充実、航空ネットワーク拡大など、**大胆な「改革」**を断行。

	(2012年)	(2015年)
・ <b>訪日外国人旅行者数</b> は、 <b>2倍増の約2000万人</b> に	836万人	⇒ 1974万人
・ <b>訪日外国人旅行消費額</b> は、 <b>3倍増の約3.5兆円</b> に	1兆846億円	⇒ 3兆4771億円

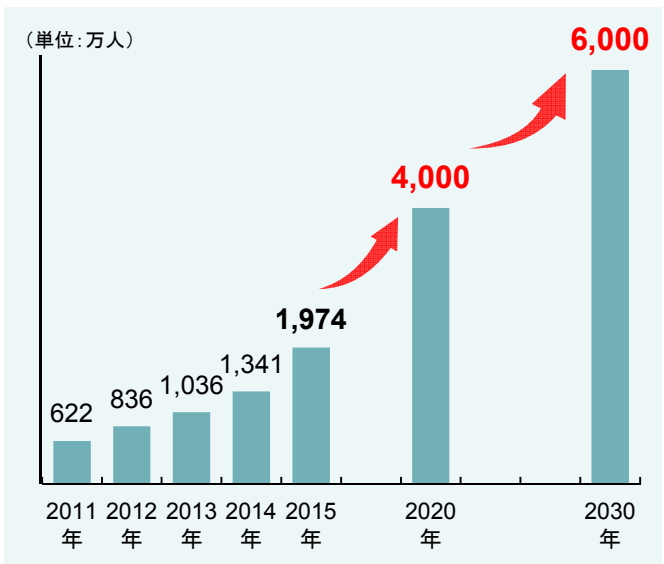
## 新たな目標への挑戦！

<b>訪日外国人旅行者数</b>	2020年： <b>4,000万人</b> (2015年の約2倍)	2030年： <b>6,000万人</b> (2015年の約3倍)
<b>訪日外国人旅行消費額</b>	2020年： <b>8兆円</b> (2015年の2倍超)	2030年： <b>15兆円</b> (2015年の4倍超)
<b>地方部での外国人延べ宿泊者数</b>	2020年： <b>7,000万人泊</b> (2015年の3倍弱)	2030年： <b>1億3,000万人泊</b> (2015年の5倍超)
<b>外国人リピーター数</b>	2020年： <b>2,400万人</b> (2015年の約2倍)	2030年： <b>3,600万人</b> (2015年の約3倍)
<b>日本人国内旅行消費額</b>	2020年： <b>21兆円</b> (最近5年間の平均から約5%増)	2030年： <b>22兆円</b> (最近5年間の平均から約10%増)

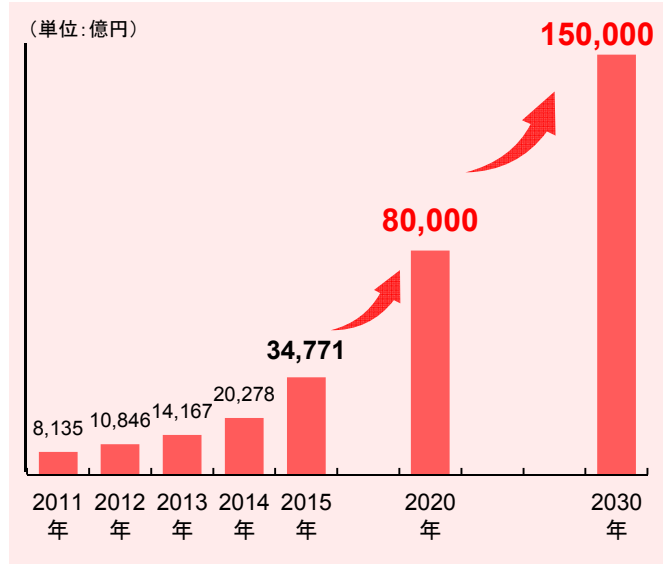
# 「明日の日本を支える観光ビジョン」～新たな目標値について～



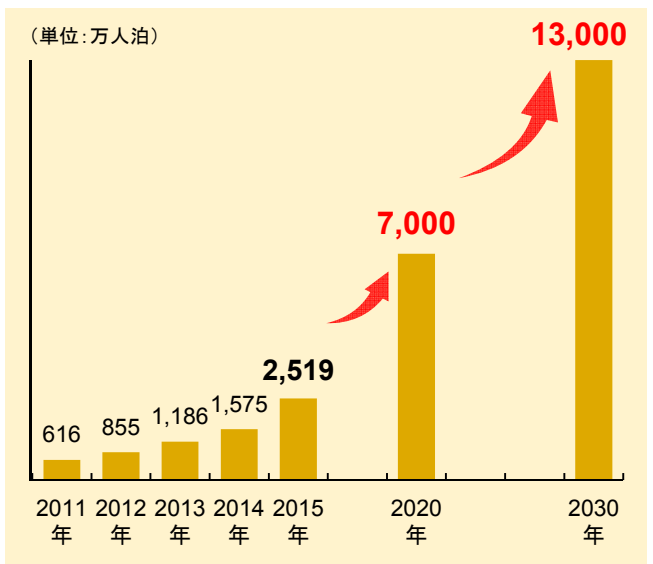
○ 訪日外国人旅行者数



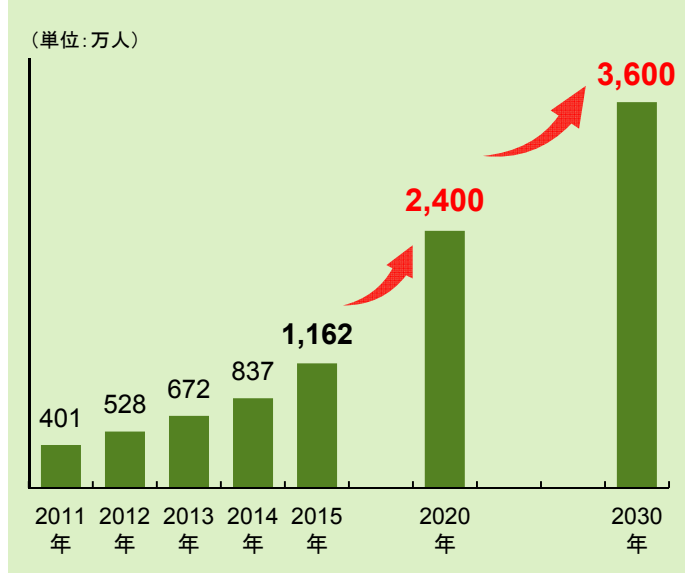
○ 訪日外国人旅行消費額



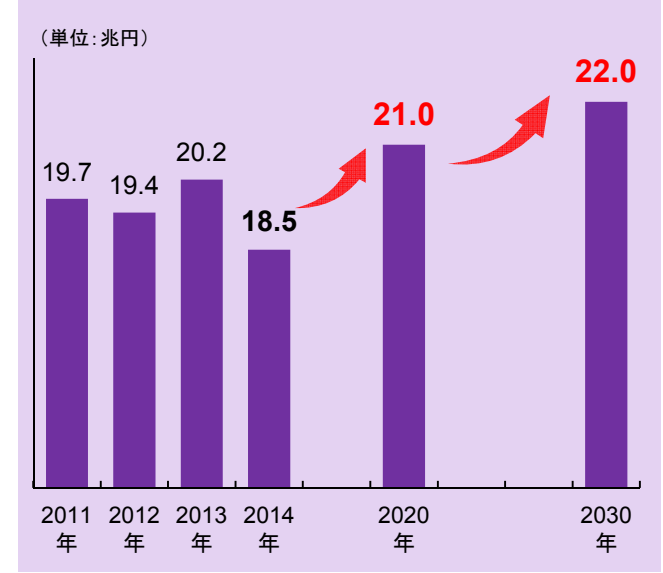
○ 地方部での外国人延べ宿泊者数



○ 外国人リピーター数



○ 日本人国内旅行消費額



## 「観光先進国」への「3つの視点」と「10の改革」

### 視点 1

観光資源の魅力を極め、  
地方創生の礎に

- 迎賓館などの「**魅力ある公的施設**」を、ひろく国民、そして世界へと**大胆に開放**
- 「**文化財**」を、「保存優先」から観光客目線での「**理解促進**」、そして「**活用**」へ
- 「**国立公園**」を、米国のイエローストーン国立公園のような、**世界水準の「ナショナルパーク」**へ
- 主な観光地で「**景観計画**」をつくり、**美しい街並み**へ

### 視点 2

観光産業を革新し、国際競争力を高め、我が国の基幹産業に

- 60年以上経過した観光関連の**古い規制**を見直し、**生産性を大切にする観光産業**へ
- 欧米豪や富裕層など、**新しい市場**を開拓し、**長期滞在と消費拡大**を同時に実現
- **疲弊した温泉街や地方都市**を、DMO形成や人材育成等を通じた**未来発想の経営で再生・活性化**

### 視点 3

すべての旅行者が、ストレスなく快適に観光を満喫できる環境に

- CIQ、通信、交通、決済、医療など**ソフトインフラ**を飛躍的に改善し、**世界一快適な滞在**を実現
- 「**地方創生回廊**」を完備し、**全国どこへでも快適な旅行**を実現
- 「**働きかた**」と「**休みかた**」を改革し、**躍動感あふれる社会**を実現



# 「明日の日本を支える観光ビジョン」 施策概要

## 1 観光資源の魅力を極め、地方創生の礎に

- **魅力ある公的施設・インフラの大胆な公開・開放**
  - ・赤坂や京都の迎賓館に加え、我が国の歴史や伝統に溢れる公的施設を一般向けに公開・開放
- **文化財の観光資源としての開花**
  - ・2020年までに、文化財を核とする観光拠点を全国で200整備、わかりやすい多言語解説など1000事業を展開し、集中的に支援強化
- **国立公園の「ナショナルパーク」としてのブランド化**
  - ・2020年を目標に、全国5箇所の公園について民間の力を活かし、体験・活用型の空間へと集中改善
  - ・2020年までに、外国人利用者数を1000万人に
- **景観の優れた観光資産の保全・活用による観光地の魅力向上**
  - ・2020年を目標に、原則として全都道府県、全国の半数の市区町村で「景観計画」を策定
  - ・歴まち法の重点区域などで無電柱化を推進
- **滞在型農山漁村の確立・形成**
  - ・日本ならではの伝統的な生活体験と非農家を含む農村地域の人々との交流を楽しむ「農泊」を推進し、2020年までに全国の農山漁村で50地域創出
- **地方の商店街等における観光需要の獲得・伝統工芸品等の消費拡大**
  - ・2020年までに、商店街等において、50箇所で街並み整備、1500箇所で外国人受入環境整備
  - ・2020年までに、外国人受入可能な伝統的工芸品産地を100箇所以上に
- **広域観光周遊ルートの世界水準への改善**
  - ・修景や体験プログラム開発等に国から専門家チーム（パナチーフーム）を派遣

## ■ 東北の観光復興

- ・東北6県の外国人宿泊者数を2020年150万人泊（2015年の3倍）に

## 2 観光産業を革新し、国際競争力を高め、我が国の基幹産業に

- **観光関係の規制・制度の総合的な見直し**
  - ・通訳案内士、ラゲージ業者、宿泊業等の抜本見直し
- **民泊サービスへの対応**
  - ・現行制度の枠組みにとらわれない宿泊法制度の抜本見直し（本年6月中目途に検討会とりまとめ）
- **産業界ニーズを踏まえた観光経営人材の育成強化**
  - ・2020年までに、トップレベルの経営人材の恒常的な育成拠点を大学院段階（MBAを含む）に形成
- **宿泊施設不足の早急な解消及び多様なニーズに合わせた宿泊施設の提供**
  - ・旅館等におけるインバウンド投資などを促進
- **世界水準のDMOの形成・育成**
  - ・2020年までに、世界水準DMOを全国で100形成
- **「観光地再生・活性化ファンド」の継続的な展開**
  - ・観光まちづくりに関する投資や人材支援を安定的・継続的に提供できる体制を整備
- **次世代の観光立国実現のための財源の検討**
  - ・観光施策に充てる国の追加的な財源確保策を検討
- **訪日プロモーションの戦略的高度化**
  - ・海外著名人の日本文化体験映像を海外キー局で配信
- **インバウンド観光促進のための多様な魅力の対外発信強化**
  - ・在外公館や放送コンテンツなどを活用した情報発信
- **MICE誘致の促進**
  - ・政府レベルでの誘致支援体制の構築
- **ビザの戦略的緩和**
  - ・中国、フィリピン、バトナム、インド、ロシアの5ヶ国を対象
- **訪日教育旅行の活性化**
  - ・「2020年までに4万人から5割増」の早期実現
- **観光教育の充実**
  - ・総合的な学習の時間等における教材の作成・普及
- **若者のアウトバウンド活性化**
  - ・若者割引等のサービス開発を通じた海外旅行の推進

## 3 すべての旅行者が、ストレスなく快適に観光を満喫できる環境に

- **最先端技術を活用した革新的な出入国審査等の実現**
  - ・世界最高水準の顔認証技術の導入などを促進
- **民間のまちづくり活動等による「観光・まち一体再生」の推進**
  - ・宿泊施設や観光バス乗降場等の整備促進
- **キャッシュレス環境の飛躍的改善**
  - ・2020年までに、主要な観光地等における「100%のクレジットカード対応化」などを実現
- **通信環境の飛躍的向上と誰もが一人歩きできる環境の実現**
  - ・無料Wi-Fi環境とSIMカードの相互補完の利用促進
- **多言語対応による情報発信**
  - ・中小事業者のWEBサイトの約半分を多言語化
- **急患等にも十分対応できる外国人患者受入体制の充実**
  - ・2020年までに、外国人患者受入体制が整備された医療機関を全国100箇所整備（現在の約5倍）
- **「世界一安全な国、日本」の良好な治安等を体感できる環境整備**
  - ・外国語対応可能な警察職員の配置等の体制整備
- **「地方創生回廊」の完備**
  - ・「ジャパン・レールパス」を訪日後でも購入可能に
- **地方空港のゲートウェイ機能強化とLCC就航促進**
  - ・複数空港の一体運営（コンプレックス等）の推進
- **クルーズ船受入の更なる拡充**
  - ・2020年に訪日クルーズ旅客を500万人に
- **公共交通利用環境の革新**
  - ・主要な公共交通機関の海外インターネット予約を可能に
- **休暇改革**
  - ・2020年までに年次有給休暇の取得率を70%に
- **リハラに向けたエバーグリーンデザインの推進**
  - ・高い水準のエバーグリーン化と心のバリアフリーを推進

東北の復興のため、観光の魅力を重点的に向上するとともに、国内外へ発信し、誘客を促進します。

## 目指すべき将来像

### 気仙沼市（宮城県）

市内外の人脈や知的資源、ノウハウと、地域で観光に取り組む人々を結びつけ、モニターツアーの企画やニーズに合わせた観光資源の見直しを実施。



観光と水産業の連携を事業化

地元の魅力を市民で再発見する取組

気仙沼市内の宿泊者数は、著しく向上。

40千人（2011年） → 94千人（2012年） → 152千人（2013年）

## 現状・課題および今後の対応

### 現状・課題

- 東北を訪れる外国人旅行者は、2014年においても震災前の水準を大きく下回る。
- 国内旅行者も、全国の観光需要（2014年）が震災前の108%であるのに対し、東北6県では震災前の89%にとどまる。
- 福島県の教育旅行の人数も、震災前の約5割にとどまる。

### 今後の対応

- **東北6県の外国人宿泊者数を2020年に150万人泊（2015年の3倍）とする**ため、今後5年間に2000人規模の海外の旅行会社関係者等の招請、交通フリーパスの改善、広域観光周遊ルート形成の促進、旅館の再生・活性化等の取組を実施。
- 東北観光の拠点として、**仙台市及び仙台空港を含む周辺エリアを「復興観光拠点都市圏」とし、重点的な支援を実施。**その成功モデルを**東北各都市に横展開**。
- 日本初となる**全世界を対象としたデスティネーションキャンペーン**として、東北プロモーションを実施。
- **「東北6県見るもの・食べもの・買いもの100選」**として国内外に強力に発信。
- **新設する交付金（東北観光復興対策交付金）**により、東北の観光資源の磨き上げを支援。
- **オリパラ**を契機に、被災地を駆け抜ける**聖火リレー**や**ホストタウンでの選手との交流**等を通じ、復興を成し遂げつつある姿を**世界発信**。
- **PTA等に対するファムトリップ**を通じた防災学習も含めた教育旅行の再興。
- コンセッションを通じた、**仙台空港のLCC拠点化**の促進。 等 22



「明日の日本を支える観光ビジョン-世界が訪れたいくなる日本へ-」において示された、日本初となる全世界を対象としたデスティネーション・キャンペーンの第1弾として、東北を対象とした集中的な訪日プロモーションを行います。実施にあたっては、観光庁・日本政府観光局(JNTO)において、東北運輸局・東北観光推進機構・東北の地方自治体及び観光関係者と密接な連携を図っていきます。

## 知名度向上

### グローバルメディア等の活用

CNN等のグローバルメディアや影響力を持つ人物を起用した映像を東北で撮影し、東北観光の魅力を発信。



### 東北のブランディング

東北の知名度調査、プロモーションを実施する上でのコアコンセプト検討、東北特設ウェブサイトの設置。



## メディア・旅行会社の招請

### 祭り等のイベントや商談会の活用

東北におけるイベントや祭り開催時のほか、東北で初となる「東アジア商談会」等に各国・地域から500名を超えるメディアや旅行会社関係者を招請し、大々的な情報発信やツアー造成を促進。



## 送客促進

### オンライン旅行会社等と連携した送客促進

オンライン旅行会社と連携した東北旅行の情報発信や、販促キャンペーンの実施。



### 共同キャンペーンによる航空路線の新規就航支援

東北6県内の空港への新規就航、チャーター便運航に対し、販売促進のための共同広告を実施。



全世界的に東北への誘客を強力に促進



東北地方には祭り・景勝地・郷土食等、まだ外国人旅行者に十分知れ渡っていない魅力ある観光資源がある。このため、東北の魅力ある観光資源について広く情報発信を行い、東北への来訪促進を図るため、観光庁では、平成28年3月4日、「東北六県見るもの・食べもの・買いもの100選」を選定した。今後、国内外に強力に発信する。

## 以下の4つのカテゴリーについて選定

### 1. 見るもの 40件(主な「見るもの」)



青森ねぶた祭



平泉一仏国土(浄土)を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群



仙台七夕まつり



全国花火競技大会



出羽三山(月山・羽黒山・湯殿山)



相馬野馬追

### 2. 食べもの 25件(主な「食べもの」)



のつけ丼



わんこそば



世界のブランド「気仙沼フカヒレ」



きりたんぼ鍋



山形芋煮



ねぎそば

### 3. 買いもの 14件(主な「買いもの」)



津軽塗



琥珀



鳴子伝統こけし



大館曲げわっぱ



さくらんぼ



会津塗

### 4. 体験 21件(主な「体験」)



雪国地吹雪体験



サップ船アドベンチャーズと大津波語り部



みちのく潮風トレイル



乳頭温泉郷



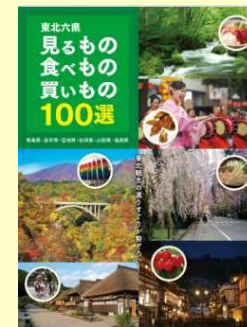
銀山温泉



スパリゾートハワイアンズ

## 広報、宣伝

イベントの開催やパンフレット、インターネットを通じて、国内外に強力に発信



パンフレット

URL: <http://www.tohoku-100selection.jp/>



100選を紹介するイベント

## これまでの経緯

- 第1回観光立国推進閣僚会議(平成25年3月26日開催)において、観光立国を実現するための施策について、関係行政機関の緊密な連携を確保し、その効果的かつ総合的な推進を図るため、日本経済再生本部等における議論も見据えつつ、策定することを決定。
- 「観光立国実現に向けたアクション・プログラム2015」を決定した第5回会議(平成27年6月5日開催)において、安倍総理より、「今後も、このアクション・プログラムについて、毎年見直しを行いながら、全力で取り組んで行く。」旨発言。

## 概要

- 「観光ビジョン実現プログラム2016」は、3月30日に「明日の日本を支える観光ビジョン構想会議」(議長：総理)において決定した新たな観光ビジョンを踏まえ、政府の今後1年を目途とした短期的な行動計画として、策定する。
- ビジョンに掲載されている施策について、それに対応する短期的な取組を「観光ビジョン実現プログラム2016」において整理し掲載する。
- 第6回観光立国推進閣僚会議(平成28年5月13日持ち回り開催)において決定。



# 「観光ビジョン実現プログラム2016」の施策例

(※下線部は、観光ビジョン掲載施策の短期的な取組を「観光ビジョン実現プログラム2016」において具体化・充実化した箇所等)

## <魅力ある公的施設・インフラの大胆な公開・開放>

### ●赤坂迎賓館

- 本年4月19日から、接遇等に支障のない限り通年で一般公開を実施する。
- 前庭については、人数制限のない自由参観とする。
- 本館・主庭については、事前申込制と当日受付制を併用する（一日当たりの定員を2000人から4000人へ拡大）。
- 別館については、事前申込制とし、一日当たり120人の受入を見込む。
- 多言語音声端末を導入する。
- 本年度第一四半期を目途として、「特別開館」の試行を開始する。

※京都迎賓館やその他の公的施設の公開・開放についても、その手法や時期等を「観光ビジョン実現プログラム2016」において具体化。

### 赤坂迎賓館



### 京都迎賓館



## <文化財の観光資源としての開花>

- 「文化財活用・理解促進戦略プログラム2020」を**本年度当初に策定する。**
- 文化財単体ではなく地域の文化財を一体とした面的整備や分かりやすい多言語解説などを実施する。
- 日本遺産をはじめ、文化財を中核とする観光拠点を全国200拠点程度整備する。

**観光拠点の面的整備**  
(福島県大内宿の茅葺き民家群)



**修復整備の拡充と美装化**  
(清水寺三重塔の美装化)



**わかりやすい多言語解説**  
(日光東照宮新宝物館)



**結婚式場等への活用**  
(西日本工業倶楽部会館)



## <国立公園の「ナショナルパーク」としてのブランド化>

### ●「国立公園満喫プロジェクト」

- ・民間活用により、外国人向け満喫メニューの整備・支援
- ・国立公園における上質感の創出、海外への情報発信強化
- ・**本年内に**、まずは5箇所の国立公園において、「国立公園ステップアッププログラム2020」（仮称）を策定。



専門家によるガイドツアー



魅力的なホテル

## <地方空港のゲートウェイ機能強化とLCC就航促進>

### ●新千歳空港の発着枠拡大

- ・ **2017年3月下旬からの夏ダイヤより、1時間当たりの発着枠を32回から42回へ拡大。**
- ・ **本年10月下旬からの冬ダイヤより、国際線航空便の発着枠を月曜日から木曜日の12時から17時、金曜日の12時以降、土曜日・日曜日の全日に大幅に拡大。**



新千歳空港の発着枠拡大

## <ビザの戦略的緩和>

- ・ **中国向けのビザ発給要件の緩和（数次ビザに係る商用目的・文化人・知識人の対象拡大、有効期間の最長10年への延長及び一定範囲の大学の学生等に対するビザ申請手続の簡素化）の決定を踏まえ、今夏までに実施に移す。**
- ・ **ロシア向けの数次ビザ発給要件の緩和（商用目的・文化人・知識人の対象拡大、有効期間の最長5年への延長等）を早期に実現する。**
- ・ **インド向けのビザ発給要件の緩和（一定範囲の大学の学生等に対するビザ申請手続の簡素化）を早期に実現する。**

## <滞在型農山漁村の確立・形成>

- ・国・地域別に、動植物検疫上、持ち出しが可能となっている品目の**パンフレットを作成・配布。**
- ・**新千歳空港の旅客ターミナルに輸出検疫カウンターを設置。**
- ・直売所や道の駅などで購入した農畜産物を**空港やクルーズ船の寄港地で受け取れる体制を整備。**

## <宿泊施設不足の早急な解消及び多様なニーズに合わせた宿泊施設の提供>

- ・宿泊施設の整備に着目した**容積率緩和制度の運用を明確化する指針を策定し、地方公共団体へ通知を发出し周知を図る。**

## <インバウンド観光促進のための多様な魅力の対外発信強化等>

- ・**災害発生から一定期間が経過し、当該地域の安全性が確保されるようになった後は、引き続き正確な情報を発信するとともに、被災地域の自治体等と連携し、必要に応じて、風評被害を最小限に抑えるべく、訪日プロモーション等を実施する。**

## <最先端技術を活用した革新的な出入国審査等の実現>

- ・出入国管理上のリスクが低く、頻繁に我が国に入国する外国人を「信頼できる渡航者」（トラステイド・トラベラー）として特定し、自動化ゲートの対象とする制度について**本年中に導入するとともに、導入後の運用状況を検証しつつ、対象者の更なる拡大を目指す。**

## 東北の観光復興

【観光ビジョン】	【観光ビジョン実現プログラム2016】
○東北の観光復興に向け、以下の取組を実施。	—
・東北6県の外国人宿泊者数を2020年に150万人泊(2015年の3倍)とするため、今後5年間に2000人規模の海外の旅行会社関係者等の招請、交通フリーパスの改善、広域観光周遊ルート形成の促進、旅館の再生・活性化等の取組を実施	・東北6県の外国人宿泊者数を2020年に150万人泊(2015年の3倍)とするため、海外の旅行会社やメディア関係者等の招請、交通フリーパスの改善、広域観光周遊ルート形成の促進、旅館の再生・活性化等の取組を実施する。 【改善・強化】
・東北観光の拠点として、仙台市及び仙台空港を含む周辺エリアを「復興観光拠点都市圏」とし、重点的な支援を実施。その成功モデルを東北の各都市に横展開	・東北観光の拠点として、仙台市及び仙台空港を含む周辺エリアを「復興観光拠点都市圏」とし、多言語案内表示板の設置や広域観光案内所の整備など、重点的な支援を実施する。【新規】
・日本初となる全世界を対象としたデスティネーション・キャンペーンとして、東北プロモーションを実施	・日本初となる全世界を対象としたデスティネーション・キャンペーンとして、海外において観光地としての認知度が他地域と比べて低い傾向にある東北を対象として、観光地としての知名度向上を図るための情報発信をJNTOにおいて強力に行い、市場別のニーズにきめ細やかに対応した訪日プロモーションを戦略的に実施する。【新規】
・「東北6県見るもの・食べもの・買いもの100選」として国内外に強力に発信	・「東北6県見るもの・食べもの・買いもの100選」を国内外に強力に発信する。【新規】
・新設する交付金(東北観光復興対策交付金)による観光資源の磨き上げ支援	・体験・滞在プログラムの造成等、地域の観光資源の磨き上げに係る取組について、「東北観光復興対策交付金」により重点的に支援する。【新規】
・オリパラを契機に、被災地を駆け抜ける聖火リレーやホストタウンでの選手との交流等を通じ、復興を成し遂げつつある姿を世界に発信	・2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の事前キャンプの誘客等により、大会参加国・地域との人的・経済的・文化的な相互交流を目指す地方自治体を「ホストタウン」として広げる取組を東北を含め全国で進めるとともに、ホストタウンに登録された地方自治体の海外への情報発信を支援する。【改善・強化】
・PTA等に対するファムトリップを通じた防災学習も含めた教育旅行の再興	・PTA等に対するファムトリップの実施により東北への教育旅行の再興を促進する。【新規】
	・「東北観光復興対策交付金」等により、地域において行う、防災学習も含めた体験・滞在プログラムの造成等を支援する。【新規】
・コンセッションを通じた仙台空港のLCC拠点化の促進 等	・東北地方へのアクセス充実に向けてLCC等による新規就航等を促進するため、JNTOにおいて、航空会社と連携した共同広告、メディア招請、旅行会社招請等のプロモーションを強化する。【新規】

# III 国土交通省の取組



# 訪日外国人旅行者の受入に向けた東北ブロック連絡会

訪日外国人旅行者拡大への取り組みを更に進めていくとともに、円滑な受け入れができるよう、現状と課題をしっかりと把握し、必要な手立てを迅速に講じていくため、東北運輸局、東北地方整備局、東京航空局や東北6県、関係事業者等を構成員とする「訪日外国人旅行者数2000万人の受入に向けた東北ブロック連絡会」及びワーキンググループを平成27年3月に設置し、複数回の議論を経て、同年12月に外国人旅行者数の拡大や受入環境整備における今後の方針等のとりまとめを行った。

平成28年3月、政府は訪日外国人旅行者数が2020年までの目標である約2000万人に達したことから、「明日の日本を支える観光ビジョン」において、**訪日外国人旅行者数を「2020年までに4000万人、2030年までに6000万人」とする新目標を決定**した。

平成28年度から「訪日外国人旅行者の受入に向けた東北ブロック連絡会」へ改名して継続運営し、**平成28年末に向けて、複数年にわたる中長期的なインフラを活用した観光施策を取り入れ、新たな課題を整理するとともに、取組の成果等を取りまとめて公表**する。

## 構成員

東北運輸局、東北地方整備局、東京航空局、東北6県、仙台市、東北観光推進機構、日本観光振興協会東北支部、日本旅行業協会東北支部、日本旅館協会東北支部連合会、日本ホテル協会東北支部、東北鉄道協会、東北索道協会、東北六県バス協会連合会、東北ハイタク連合会、全国レンタカー協会東北地区連合会、東北旅客船協会、東北経済連合会、東北六県商工会議所連合会、仙台国際空港、東日本旅客鉄道、国際観光振興機構

## 平成27年度主な課題例

- ・ 空港・港のC I Q体制の整備
- ・ 空港容量、貸切バス、宿泊施設等の供給の確保
- ・ 観光バス駐車スペースの確保
- ・ 観光地や都市部におけるバリアフリー化
- ・ 観光案内所、道の駅、みなとオアシス等の観光案内機能の向上 等

## 当面のスケジュール

5月  
東北ブロック連絡会（改）  
の立ち上げ

現状把握・  
課題の整理

6月30日  
対応策の  
中間とりまとめ

12月（予定）  
進捗状況の確認、3つの成果、  
今後の課題等の最終とりまとめ

- 訪日外国人旅行者拡大への取り組みを更に進めていくとともに、円滑な受け入れができるよう、現状と課題をしっかりと把握し、必要な手立てを迅速に講じていくため、東北運輸局、東北地方整備局、東京航空局や東北6県、関係事業者等を構成員とする「訪日外国人旅行者数2000万人の受入に向けた東北ブロック連絡会」を平成27年3月に設置し、同年12月に外国人旅行者数の拡大や受入環境整備について、今後の方針等のとりまとめを行った。
- 政府は平成28年3月、訪日外国人旅行者数は2020年までの目標である約2000万人に達したことから、「明日の日本を支える観光ビジョン」において、訪日外国人旅行者数を「2020年までに4000万人、2030年までに6000万人」とする新目標を決定した。これを受け、平成28年度から「訪日外国人旅行者数2000万人の受入に向けた東北ブロック連絡会」を「訪日外国人旅行者の受入に向けた東北ブロック連絡会」へ改名し、平成28年末に向けて新たな課題整理及び主な成果等を取りまとめる。

## 「現状・課題」「今後の方針」(抜粋)

### 無料公衆無線LANの環境整備

#### 【現状・課題】

- ◆ 整備に要する費用が課題。また、仕組みについて理解されていない。
- ◆ 整備されていても外国人旅行者用の案内・説明がない所もある。

#### 【今後の方針】

- ◆ 東北管内で行われている補助制度や取組事例を紹介することにより、無料公衆無線LANの有用性を示し、導入を促進する。
- ◆ 共通シンボルマークである「Japan Free Wi-Fi」の表示や利用方法の整備により、外国人旅行者が利用しやすい環境を整備する。

### 多言語対応

#### 【現状・課題】

- ◆ 外国人旅行者が少ないため、必要性を感じない。また、対応方法や費用対効果が課題。
- ◆ 観光地等への案内標識が「ローマ字」表記となっている。

#### 【今後の方針】

- ◆ 補助制度や取組事例の紹介、観光庁ガイドライン等に沿った取り組みを促進することで、多言語化の取り組みを促進する。
- ◆ 主要な観光地等の案内標識を「ローマ字」表記から、外国人に分かりやすい「英語」表記への改善を推進していく。

### 主要観光地

#### 【現状・課題】

- ◆ 東北の夏祭り期間中は混雑しており、宿泊施設の予約が取りづらい。そのため、海外からのツアーは限られている状況。
- ◆ 面積が広域で観光地が点在する東北において、域内移動の利便性向上が課題。

#### 【今後の方針】

- ◆ 日本旅館協会東北支部連合会、日本ホテル協会東北支部において一定の宿泊数インバウンド用に確保し、海外エージェント(台湾)に販売した。今後も取り組みを拡大する方向で調整。
- ◆ インバウンド向けに、JRにおいてエリアを絞ったフリーパスの販売、高速バスフリーパスやレンタカーでの東北周遊の促進などの検討を行う。

## 主な取組事例

### ○Wi-Fiの整備(仙台市)

仙台市内において、アーケード商店街全エリア、S-PAL仙台本館(仙台駅直結の商業施設)、仙台城跡及び市内観光周遊バス「るーぷる」にフリーWi-Fiを導入。面的に整備を行うことで、旅行満足度を飛躍的に高める取り組みを実施。



### ○多言語対応(会津若松市)

「音声ガイドシール」と「多言語音声ガイドペン」を活用し、鶴ヶ城(史跡・若松城)を核とした地域資源の情報を4言語(日本語・英語・中国語・韓国語)で発信する。(H27.10.1~11.30 実証実験)



### ○東北夏祭りにおけるインバウンド宿泊枠の確保

日本旅館協会東北支部連合会、日本ホテル協会東北支部が連携し、一定の宿泊数をインバウンド用に確保し、海外のエージェントに販売。

#### 【送客実績】

- ・台湾旅行会社6社によるツアー12本(新庄祭り3本含) 84名参加284人泊



## 「今後の進め方」

### 基本的考え方

- 東北の空港への直行便や乗り継ぎ便を活用する視点と、東京や北海道から一足伸ばしてもらおうという視点のもと、東北ブランドを意識し、東北が一体となった取り組みを行う。
- 海外直行便の新設や既存路線の増設、大型クルーズ船の寄港の増加、鉄道・高速バス・レンタカー等による周遊の利便性向上等による旅行者数の拡大を目指す。
- 受入環境整備については、ニーズの高い「無料公衆無線LANの環境整備」や「多言語対応」について、広域観光周遊ルート形成も踏まえ、東北全体として戦略的に取り組む。

### 継続的検討事項

1. 海外直行便の新設、既存路線の増設
2. 鉄道や高速バス、レンタカー等による東北の周遊促進
3. 大型クルーズ船の寄港の増加と受入環境整備
4. 広域観光周遊ルートの形成に合わせた受入環境整備
5. 無料公衆無線LANの環境整備
6. 多言語対応の強化



# 観光庁の予算の全体像 (【27年度】103.9億円⇒【28年度】245.5億円)

(単位: 百万円)

## インバウンド受入環境整備 (0.82億⇒83.7億)

訪日外国人の入国から、目的地までの移動、観光地での交流・体験、宿泊施設での滞在まで、面的に受入環境整備を支援。

## 観光地域づくり (19.7億⇒63.6億)

拡大するインバウンド需要の地域への取り込みをはじめ、国内外からの観光客の流れを戦略的に創出し、観光による地方創生を進める。

## 訪日プロモーション (80.3億⇒94.8億)

急増する訪日需要を一過性に終わらせることなく、プロモーション等の取り組みを強化。

	28年度 予算額 (A)	27年度 予算額 (B)	倍率 (A/B)	「27補正 +28当初」	「26補正 +27当初」 との比較
<b>1. 「次の時代」に向けたインバウンド受入環境整備・観光産業活性化</b>	<b>8,374</b>	<b>82</b>	<b>102.5</b>	<b>9,392</b>	<b>66.3</b>
訪日外国人旅行者受入環境整備緊急対策事業	8,000	0	皆増	9,019	皆増
産学連携による旅館・ホテルの経営人材育成事業	322	27	12.0	322	12.0
ユニバーサルツーリズム促進事業	32	35	0.90	32	0.90
通訳ガイド制度の充実・強化	20	20	0.99	20	0.99
前年度限り	0	0	-	0	皆減
<b>2. 地方創生のための観光地域づくり</b>	<b>6,367</b>	<b>1,972</b>	<b>3.23</b>	<b>6,766</b>	<b>2.77</b>
広域観光周遊ルート形成促進事業	1,640	304	5.40	1,890	3.41
観光地域ブランド確立支援事業	251	257	0.98	251	0.98
地域資源を活用した観光地魅力創造事業	338	290	1.17	388	1.34
テーマ別観光による地方誘客事業	70	0	皆増	70	皆増
統計整備による観光地域づくり支援	500	460	1.09	500	0.89
観光地域動向調査事業	38	38	1.01	38	1.01
東北地方へのインバウンド推進による観光復興事業【東北観光復興対策交付金・復興枠】	3,265	0	皆増	3,365	皆増
福島県における観光関連復興支援事業【復興枠】	266	374	0.71	266	0.71
前年度限り	0	144	皆減	0	皆減
前年度限り【復興枠】	0	106	皆減	0	皆減
<b>3. 戦略的訪日プロモーション・MICEの誘致の促進</b>	<b>9,482</b>	<b>8,028</b>	<b>1.18</b>	<b>13,667</b>	<b>1.16</b>
JNTO（日本政府観光局）によるビジット・ジャパン事業【運営費交付金】	7,037	6,542	1.08	11,222	1.13
国と地方の連携によるビジット・ジャパン事業	1,245	1,297	0.96	1,245	0.96
東北地方へのインバウンド推進による観光復興事業【運営費交付金・復興枠】	1,000	0	皆増	1,000	皆増
MICEの誘致の促進	199	190	1.05	199	1.05
前年度限り	0	0	-	0	皆減
<b>4. その他（経常事務費等）</b>	<b>322</b>	<b>309</b>	<b>1.04</b>	<b>322</b>	<b>1.04</b>
合 計	<b>24,545</b>	<b>10,390</b>	<b>2.36</b>	<b>30,147</b>	<b>2.06</b>

「次の時代」に向けた質の高い観光立国を推進するためには、外国人受入環境整備とホテル・旅館等をはじめとする観光産業の高度化・生産性向上が必要。

## 具体的な取組み

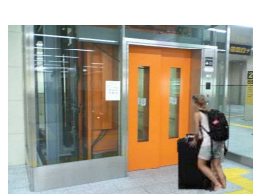
「**明日の日本を支える観光ビジョン構想会議**」で議論された受入環境整備の課題

国交省の「**地方ブロック別連絡会**」において整理した地域における受入環境整備の課題

平成28年度予算で課題解決し、大きく前進させる。

### 二次交通対策

- デジタルサイネージの設置
- 多言語バスロケーションシステムの設置
- エレベーター・スロープ等の設置
- 全国共通 I C カードの導入



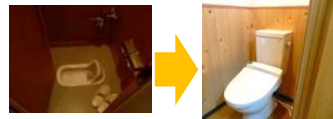
### 地方での消費拡大に向けた環境整備

- 免税取引情報の整備
- 観光案内所の機能向上
- 通訳ガイドの活用促進
- 旅行者のケガ・病気等への対応能力の向上



### 宿泊施設のインバウンド対応支援

- Wi-Fi環境整備
- トイレ洋式化



- 多言語対応



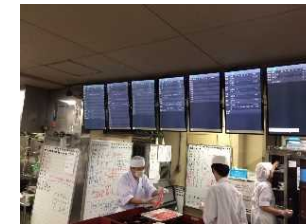
### 空室情報提供の強化

- 観光案内所での空室情報集約・提供



### ICTを活用した生産性向上支援

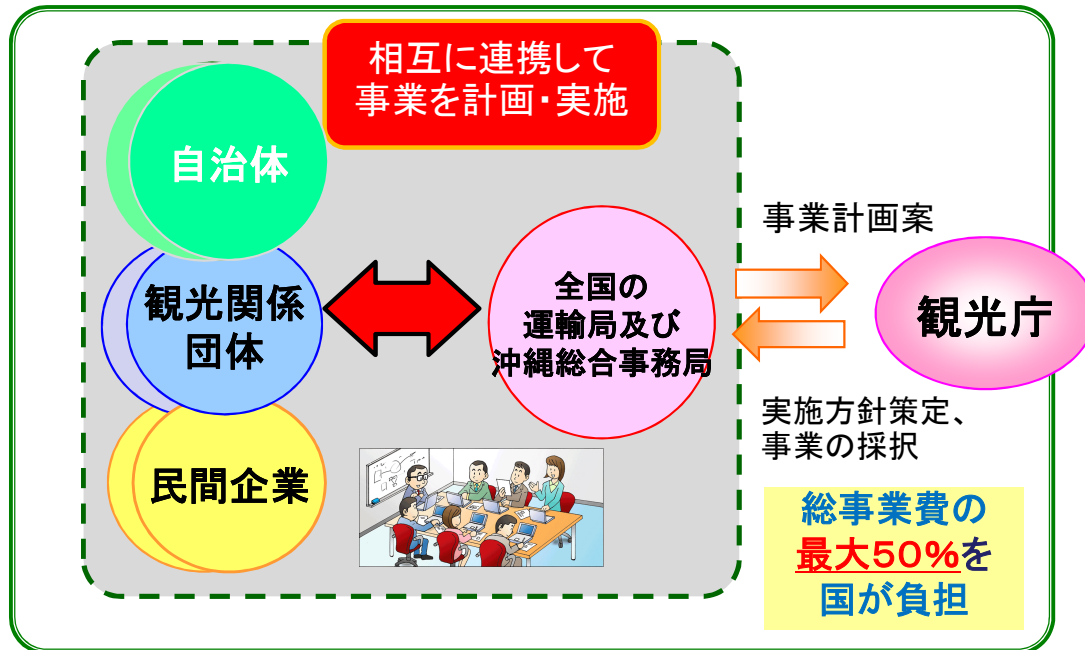
- タブレット端末の活用
- 厨房の I C T 化



# ビジット・ジャパン (VJ) 地方連携事業について

- 国と地方(自治体及び観光関係団体等)が都道府県の枠を越え広域に連携して取り組む **訪日プロモーション**事業
- インバウンドに取り組む地域の連携を促し、訪問地の多様化や滞在日数の増加を図ることにより、訪日リピーター需要の拡大に対応するとともに、多様なニーズに即した誘客を実現

## VJ地方連携事業



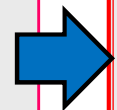
- ◎ 滞在日数の長い外国人旅行者のニーズに対応した広域的な誘致活動を実施
- ◎ 新たな季節や地域の訪日需要を喚起し、訪日時期や地域の分散化を図る事業に重点化

Point



### 【事業内容の例】

- 旅行会社関係者等の招請
- 海外旅行博への出展
- 海外新聞・雑誌等への広告掲載
- メディア関係者等の招請
- 外国人向けパンフレット作成
- 教育関係者等の招請 等



訪日  
外国人  
旅行者の  
拡大

地域が広域に連携



具体事例



【九州オルレ】  
トレッキング+温泉・宿泊



【中国地方インバウンドフォーラム】  
現地旅行会社との大商談会



【北陸新幹線】タイの旅行博にお  
いて沿線の魅力をPR



【東北プロモーションIN台湾】  
台湾でのプロモーション



【昇龍道】  
美濃和紙の里で紙すき体験



- ・東北への訪日外国人旅行者数を、震災前の2010年レベルに回復させることを目標とする。
- ・対象市場、かつその市場のターゲット層を絞り込み、その層に効果的な表現で訴求する。
- ・常に東北全体ではなく、テーマや滞在日数などを踏まえた旅行者目線で東北を面として捉え、該当エリアの魅力を具体的に表現する。
- ・東北インバウンドプロモーションロゴマークをあらゆる場面で活用し、「日本東北」の認知度向上を図る。

## 方針1 対象市場の絞り込み

**最重点市場**：台湾、韓国※、タイ  
**重点市場**：中国、香港※、オーストラリア、マレーシア、シンガポール※  
※震災からの回復、風評被害の払拭を念頭に置いた取り組みが特に必要な市場

## 方針2 ターゲットに即したプロモーション展開

- ・初めての訪日で東北を訪れる旅行者は多くないことから、訪日リピーターをターゲットに設定し、各市場のハイシーズンの来訪を狙い、その時期に合う素材でPR。
- ・台湾はすでに認知が高い秋(紅葉)の時期ではなく、台湾のハイシーズンであり、かつ東北への来訪がまだ少ない夏のPRを中心に展開。
- ・韓国は、トレッキングなどの特定のテーマに基づいた観光魅力のPRを強化。
- ・東南アジアをはじめとした雪に関心の高い市場へは、雪に絡めたコンテンツ(雪と温泉、雪遊び、雪と桜など。)を中心に展開。 など

## 方針3 東北ならではの意識した素材の活用

例えば、 冬＝樹氷×温泉      春＝桜×雪の回廊  
夏＝祭り×自然景観      秋＝紅葉×果物  
※東北ならではの、それが意味する価値、東北旅行の質の高さを分かりやすく訴える。  
※桜や雪、単体なら他地域にもあるので、組み合わせで東北らしさを。

## 方針4 広域組織、計画や地域と連携した事業を展開

- ・広域観光周遊ルート「日本の奥の院・東北探訪ルート」を重点的に発信。
- ・東京や北海道といった東北以外との連携による観光・アクセス情報の発信。
- ・北東北三県観光立県推進協議会、栃木・南東北国際観光テーマ地区推進協議会等といった広域組織や自治体、民間企業等が相互に連携し、個々の事業を連動させた効率的な誘客促進事業を実施。

# VJ地方連携事業：東北ブランド（「桜と雪の回廊」）の発信

## ビジット・ジャパン地方連携事業 ～東北ならではの分かりやすいテーマで発信～

桜と雪の回廊を同時に楽しめるといふ東北ならではの魅力について、海外エージェントの視察を通じて春の東北へのツアー商品造成を働きかけるとともに、海外メディア取材を通じて海外現地の一般消費者に具体的に発信し、東北への旅行需要の喚起を図るため、毎年度集中的に実施。

### 2016年の事業内容

「桜と雪の回廊が同時に見られる」をテーマに東北各地の4コースを設定し、東南アジア3市場から7名のメディア、香港からブロガー2名、台湾からエージェント2名を2016年4月に招請。

#### 東南アジア(タイ、ベトナム、インドネシア)メディア2コース

福島花見山公園・宮城蔵王キツネ村・八幡平雪の回廊・松島瑞巖寺・弘前城・津軽鉄道・八甲田雪の回廊 など

#### 香港ブロガーコース

霞城公園・銀山温泉・加茂水族館・大湍村・なまはげ館・角館・刺巻湿原・田沢湖・八幡平雪の回廊・弘前城 など

#### 台湾エージェントコース

鶴ヶ城・喜多方市・高橋フルーツランド、猊鼻溪、中尊寺、かたくり館・小坂レールパーク・弘前城 など



### 2015年の実績

- ・東南アジア5市場から、11名のメディア。
- ・香港から、ブロガー1名。
- ・台湾から、エージェント4名を招請。

#### メディアでの記事掲載(シンガポール)



#### ブロガーによるガイドブック作成(香港)



## 【魅力的な鉄道の旅を海外メディアを通じて発信（台湾・香港・タイ）】

北海道新幹線開業を機にした観光ルートを訴求し、更なるFIT旅行者の増加を目指すため、訪日外国人旅行者向けフリーパス「JR East-South Hokkaido Rail Pass」を活用した魅力的な鉄道の旅を海外メディアに発信し、東北等の誘客促進の強化を実施。

〈日程〉 6月から7月を含む6泊7日程度（予定）

〈連携先〉 JR東日本・宮城県・青森県・仙台市・函館市・北洋銀行・JR北海道・東北観光推進機構



## 【オーストラリアに向けて東北の更なる冬季の魅力、新たな夏季の魅力を強力に発信】

オーストラリアにおいて、スキー等の専門旅行博に出展し、一般消費者向けに東北のスキーリゾート等の魅力を発信するとともに、現地旅行会社を対象とした商談会に参加し、東北のスキー旅行への誘客を行うとともに、6月にはメディア招請を実施し、初夏の東北の魅力を発信を実施。

〈旅行博〉 5月29日（日）「Snow Travel Expo 2016 Sydney」

〈メディア招請〉 6月12日（日）～17日（金）

〈連携先〉 東北観光推進機構



## 【シンガポール及びマレーシアから旅行会社を招請し、東北の初夏の魅力を発信】

東南アジアでは体験できない新緑の時期の心地よさを中心とした東北の初夏の魅力について、新緑スポットの視察やいちごなどの果物狩り、起き上がり小法師の絵付けなどの伝統文化の体験をするとともに、東北の観光関係者との旅行商品造成に向けた商談を実施。

〈日程〉 5月27日（金）～6月2日（木） 6泊7日

〈連携先〉 東北観光推進機構





東北地方の風評被害を払拭し、東日本大震災の影響により大きく落ち込んだ訪日外国人旅行者を回復させ、インバウンド急増の効果を波及させることにより、観光を通じて被災地の復興を加速化させるため、新たな交付金を設け、地域からの発案に基づき実施するインバウンドを呼び込む取組を支援する。

## 交付対象

東北地方の地方公共団体

<策定>

## 観光復興対策実施計画

〔東日本大震災からの観光復興の取組に関する計画〕

### ①計画の期間

### ②計画の目標

適切な評価指標を設定し、  
毎年度、計画の実現状況の  
評価を実施

### ③交付対象事業

計画の目標を達成するため、  
マーケティング調査に基づき  
必要となる事業を実施

PDCAサイクルを確立し、  
着実に観光復興の取組を  
実施

## 交付対象事業

〔地域の創意工夫を発揮するため、幅広い事業メニューを設定〕

- ①観光復興促進調査事業
- ②地域取組体制構築事業
- ③プロモーション強化事業
- ④受入環境整備事業
- ⑤滞在コンテンツ充実・強化事業
- ⑥国際会議等誘致・推進事業
- ⑦訪日外国人を誘客するために必要であると国土交通大臣が認めた事業

## 選定基準

- 1) 地域資源をより効果的に訴求させることにより、風評被害の払拭につながる。
- 2) 地域の課題解決を図り、新たな旅行需要の開拓につながる。
- 3) PDCAサイクルが明確である。
- 4) 地域において継続的に取り組む体制が確保されている。

※他の地方公共団体と連携し、広域的に事業を実施するものを優先。

## 交付率

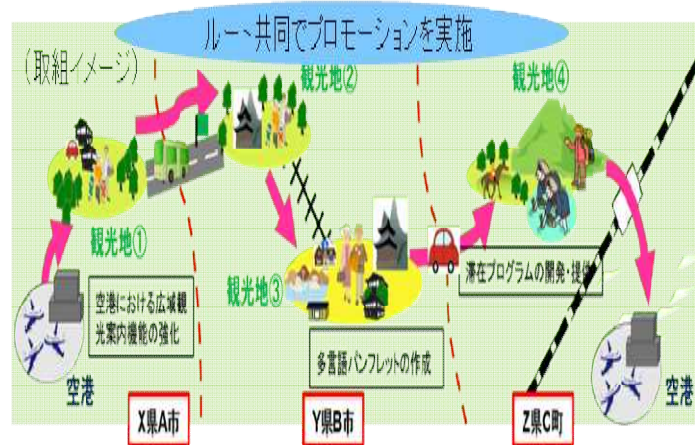
〔官民挙げた観光復興の取組を促進。〕

- ①地方公共団体が自ら実施する事業：  
事業の実施に要する経費の8/10以内
- ②民間団体等が実施する事業に地方公共団体が補助金の交付を行う事業：  
地方公共団体の補助額(但し、事業の実施に要する経費の1/2以内)の、8/10以内

## 広域周遊ルート形成促進

認定を受けた広域観光周遊ルートに、**関係省庁の施策を集中投下**し、地域の関係者が実施する、

- ①マーケティングに基づく戦略策定
- ②ゲートウェイにおける案内機能等の強化
- ③拠点地区における観光資源の磨き上げ
- ④広域での外国人受入環境整備、免税店の拡大
- ⑤海外プロモーション及び**通訳案内士の活用**等に対する**パッケージ支援**を行う。



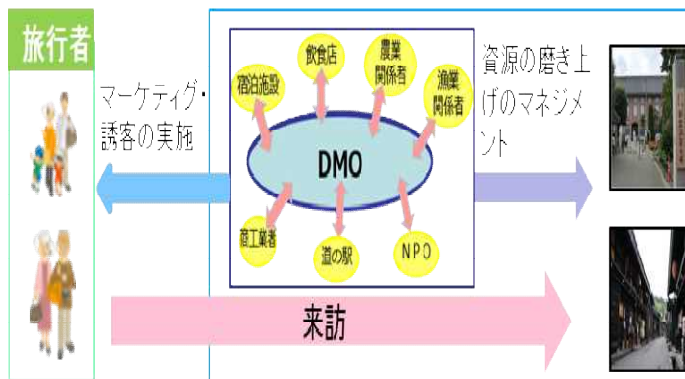
## 日本版DMOの確立

全国各地のモデルとなる地域において、取組の中心となる組織・機能(日本版DMO)の確立と、当該組織が実施する、

- ①関係者の合意形成
- ②**科学的なマーケティングに基づく戦略策定**
- ③各種事業のマネジメント等を支援し、地域の関係者が一体となって観光資源を世界に通用するレベルまで磨き上げる取組

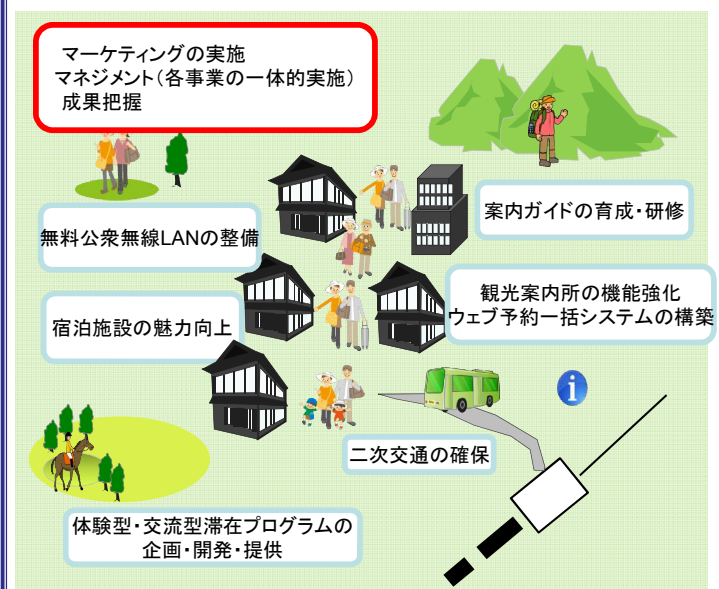
を推進する。

また、こうした取組を先導できる**人材の育成を推進し、地域とのマッチングを行う仕組みづくり**を実現する。



## 地域の観光資源の活用

地域の観光資源を、歴史的景観、美しい自然、海洋資源、豊かな農山漁村、魅力ある食文化等の観光資源を活かした地域づくり施策と、体制づくり、受入環境整備、二次交通の充実等の観光振興のための施策を一体で支援する。





# 広域観光周遊ルート形成促進事業及び認定された計画

## 広域観光周遊ルート形成促進事業

- 外国人旅行者の地方への誘客を図るため、複数の広域観光周遊ルートを認定し、関係省庁の施策を集中投入するとともに、地域が推進する取組をパッケージで支援し、海外に強力に発信。

### これまでの状況

平成27年6月12日に、7ルートを認定  
平成28年6月14日に、4ルートを追加認定  
(全国11ルート)

### 各ルートでの取組例

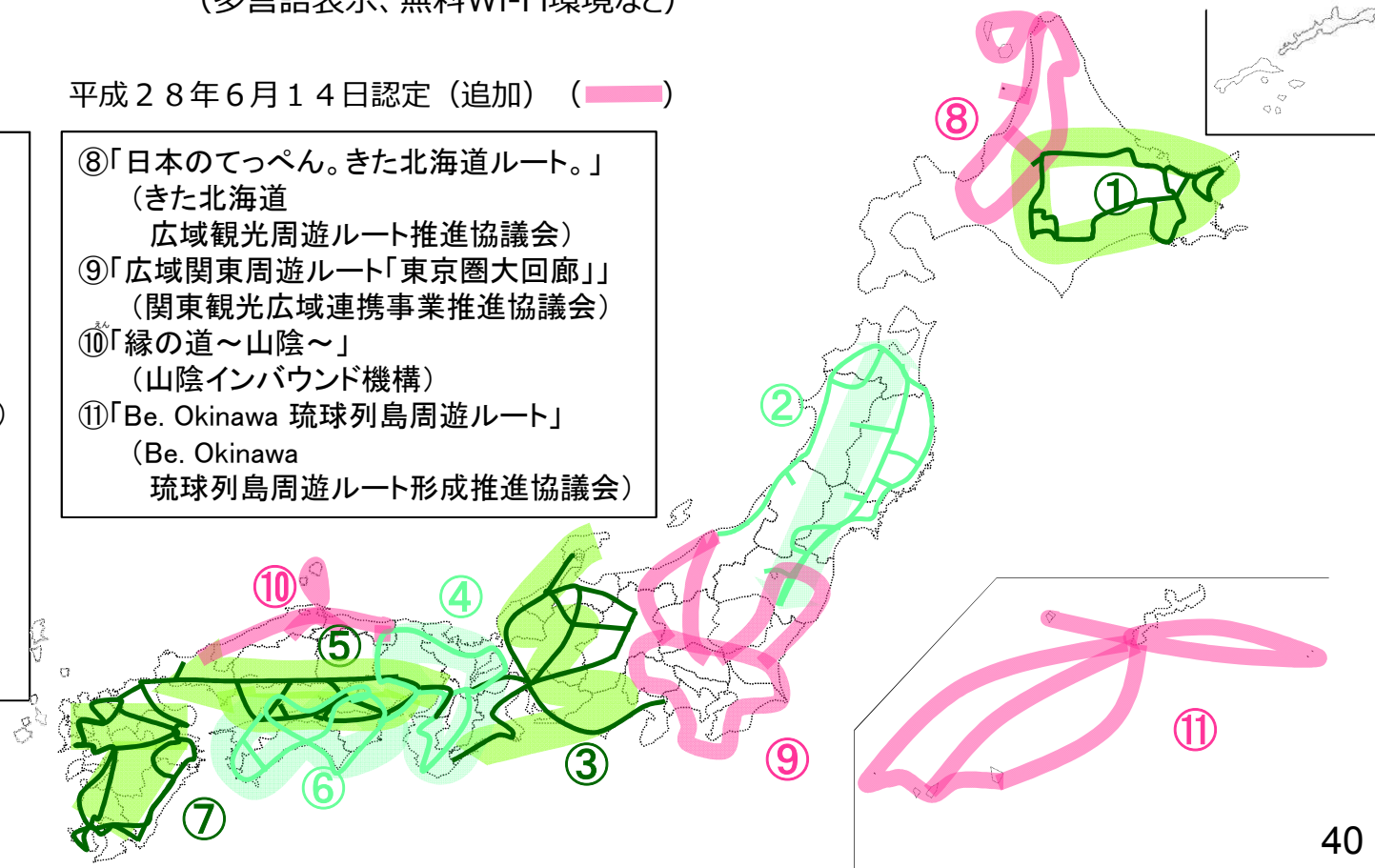
- ・マーケティング調査
- ・計画策定（専門家の招へい等を含む）
- ・観光資源の磨き上げ
- ・受入環境整備  
(多言語表示、無料Wi-Fi環境など)
- ・海外プロモーションの実施
- ・広域周遊ツアーの企画・販売
- ・その他広域での地域共通の取組等

平成27年6月12日認定 (   )

平成28年6月14日認定 (追加) (  )

- ①「アジアの宝 悠久の自然美への道 ひがし北・海・道」  
(「プライムロード ひがし北・海・道」推進協議会)
- ②「日本の奥の院・東北探訪ルート」  
(東北観光推進機構)
- ③「昇龍道」  
(中部(東海・北陸・信州)広域観光推進協議会)
- ④「美の伝説」  
(関西広域連合、関西経済連合会、関西地域振興財団)
- ⑤「せとうち・海の道」  
(せとうち観光推進機構、瀬戸内観光ルート誘客促進協議会)
- ⑥「スピリチュアルな島～四国遍路～」  
(四国ツーリズム創造機構)
- ⑦「温泉アイランド九州 広域観光周遊ルート」  
(九州観光推進機構)

- ⑧「日本のおっぺん。きた北海道ルート。」  
(きた北海道広域観光周遊ルート推進協議会)
- ⑨「広域関東周遊ルート「東京圏大回廊」」  
(関東観光広域連携事業推進協議会)
- ⑩「縁の道～山陰～」  
(山陰インバウンド機構)
- ⑪「Be. Okinawa 琉球列島周遊ルート」  
(Be. Okinawa 琉球列島周遊ルート形成推進協議会)



# 「日本の奥の院・東北探訪ルート」形成計画概要

## 名称・コンセプト

- ・ 名称 「日本の奥の院・東北探訪ルート」  
“Exploration to the Deep North of Japan”
- ・ 副題 『もう一つの日本・東北 山の彼方の美しい四季と歴史文化、食文化を探訪するルート』
- ・ コンセプト 色彩あざやかな四季を奏で、多くの文人を魅了してきた美しい自然と風土が育んだ歴史文化と食を探訪する旅
- ・ 主な対象市場・ターゲット  
台湾、香港、中国(上海・広州)、ASEAN、欧米、オーストラリア

## 申請者(事業実施体制)

- ・ 会長 東北観光推進機構会長 清野 智
- ・ 事務局 東北観光推進機構
- ・ 構成員 東北6県、新潟県、仙台市 ほか

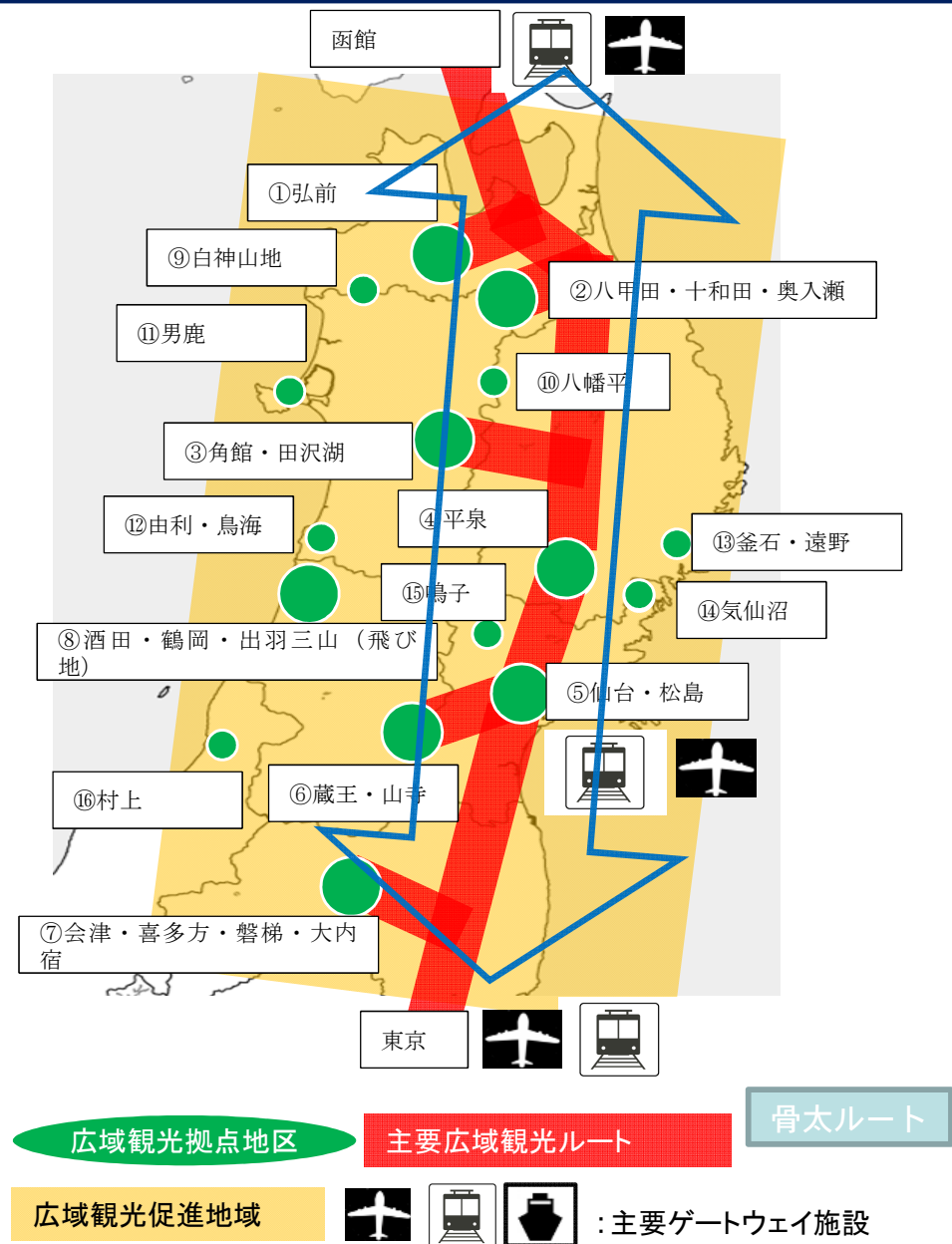
## 目標設定・成果把握

- ・ 目標: 観光入込客数、宿泊者数等において、平成29年度に震災前の実績値を上回ること
- ・ 成果把握の方法: 発表される観光関係統計数値

## 事業の概要

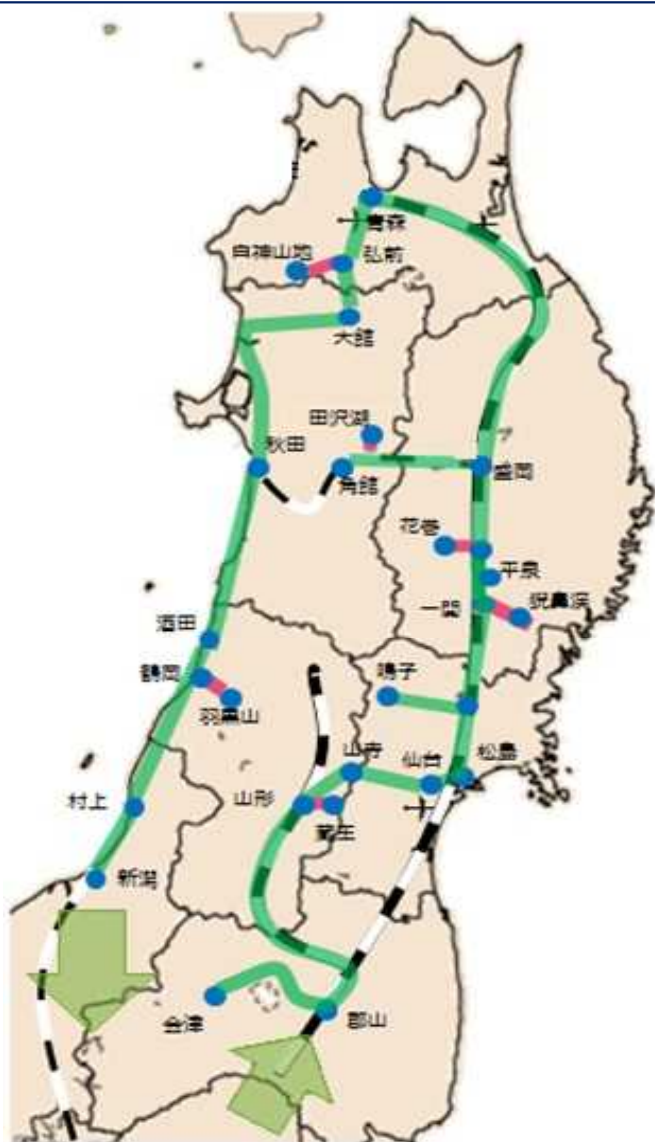
- ・ 広域で取り組む主な事業
  - (1) 事業計画策定・マーケティング
    - 海外の市場動向等を把握し、事業計画を策定
  - (2) 受入環境整備・交通アクセスの円滑化
    - 外国人の現場調査により、必要な受入環境を洗い出し整備
  - (3) 滞在コンテンツの充実
    - 既存滞在コンテンツの集約と検証
  - (4) 対象市場に向けた情報発信・プロモーション
    - 既存コンテンツの集約と見直し。ルート形成に合った情報発信とプロモーション

## 対象地域の地図



# 【日本の奥の院・東北探訪ルート】 ①四季が織りなす東北の宝コース

四季が織りなす東北の宝コース



地図記載例／

- 鉄道
- 公共バス
- 団体ツアーバス・タクシー・レンタカー

## 【コンセプト】

東北の四季が織りなす風土と、自然と共存する人々の歴史・文化・食など、東北の人々が生み育てた宝と呼べる様々な地域を訪れる出会いの旅。

## 【対象市場】

最重点市場：北米  
重点市場：欧州、タイ

## 【コンセプトを体現する主たる観光資源】

### ①蔵王温泉 (山形県山形市)



約1,900年の歴史がある蔵王温泉の、一度に200人が入れる大露天風呂。

### ② 山寺 (山形県山形市)



約1,100年前に開かれたお寺。山門から奥の院までの石段は800段を超える。

### ③ 日本三景・松島 【ミシュラン三ツ星】 (宮城県松島町)



約900年もの昔から偉人に親しまれてきた日本三景。海に浮かぶ多島美を楽しめる。

### ④ 平泉 【世界遺産】 (岩手県平泉町)



約900年前に建てられた中尊寺金色堂には、ミイラ化した亡骸が納められている。

### ⑤ 狛鼻溪舟下り (岩手県一関市)



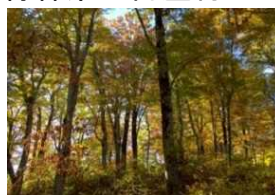
船頭の歌を聴きながら絶景舟下りを楽しむ。運玉投げで運だめしも楽しい。

### ⑥ 角館 (秋田県仙北市)



約400年前の町並みをそのまま残し、四季折々に伝統的景観が楽しめる。

### ⑦ 白神山地 【世界遺産】 (青森県西目屋村ほか)



世界最大級のブナの原生が残る世界遺産。鮮やかな自然や滝を楽しめる。

### ⑧ 羽黒山 【ミシュラン三ツ星】 (山形県鶴岡市)



約1,400年前に開かれた修験の山。山頂付近の五重の塔は国宝に指定。



# 【日本の奥の院・東北探訪ルート】 ②三陸の恵みと復興コース

## 三陸の恵みと復興コース



### 【コンセプト】

日の出と共に活気づく漁港や、世界三大漁場の一つである三陸沿岸の海に生きる人々の日常と文化にふれるとともに、三陸ならではの海産物などの食を楽しみながら震災からの復興を感じる旅。

### 【対象市場】

最重点市場：台湾  
重点市場：マレーシア、インドネシア

### 【コンセプトを体現する主たる観光資源】

① 日本三景・松島  
【世界で最も美しい湾クラブ】  
(宮城県松島町)



約900年もの昔から偉人に親しまれた日本三景。遊覧船から絶景を楽しめる。

④ 気仙沼漁港  
(宮城県気仙沼市)



気仙沼はメカジキの水揚げ量が日本一。海からの豊富な恵みを体感。

⑦ 浄土ヶ浜  
(岩手県宮古市)



三陸復興国立公園を代表する観光名所。朝焼けは息をのむ美しさ。

② 南三陸志津川温泉  
(宮城県南三陸町)



開放感のある露天風呂から、志津川湾を一望。

⑤ 平泉  
【世界遺産】  
(岩手県平泉町)



毛越寺浄土庭園は約800年前に作られ今も変わらぬ美しい姿を見せている。

⑧ 三陸鉄道北リアス線  
(岩手県)



③ 南三陸キラキラ丼  
(宮城県南三陸町)



地元産の新鮮な海産物がたっぷりと贅沢にのせられたどんぶり。

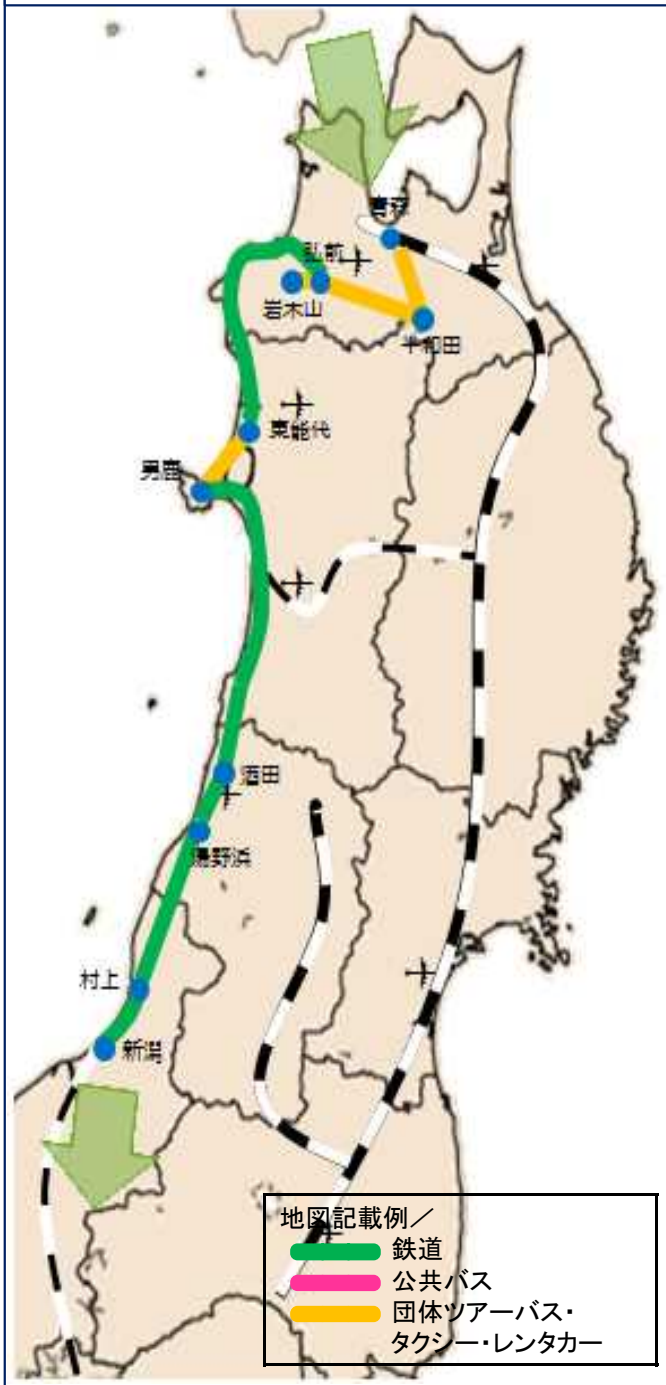
⑥ 遠野ふるさと村  
(岩手県遠野市)



東北の昔ながらの農村風景を再現。地域に伝わる文化や伝統を体験。

# 【日本の奥の院・東北探訪ルート】 ③日本海的美と伝統コース

## 日本海的美と伝統コース



### 【コンセプト】

日本海側特有の文化、海岸美を巡る。青い海、激しい溪流、沈む夕日など、刻々と変化する自然美と海に近い町に生きる人々の暮らしと伝統に出会う旅。

### 【対象市場】

最重点市場：タイ  
重点市場：北米、豪州

### 【コンセプトを体現する主たる観光資源】

- ① 奥入瀬溪流  
(青森県十和田市)



やさしい木洩れ日、心地よい風と空気、溪流の水音、四季折々の自然が体感できる。

- ② 弘前 洋館めぐり



明治時代に建てられたモダンな洋風建築も数多く残されています。

- ③ リゾートしらかみ(鉄道)  
(青森県・秋田県)



一度は乗ってみたいローカル線として日本でも人気。美しい海と東北の風景が楽しめる。

- ④ 潮瀬崎のゴジラ岩  
(秋田県男鹿市)



海に向かって吠えているかのようなゴジラ岩。夕日の絶景写真が狙い目。

- ⑤ 相馬樓  
(山形県酒田市)



華やかな舞娘踊りを見ながら昼食を楽しむ。

- ⑥ 加茂水族館  
(山形県鶴岡市)



ギネスブックに認定された世界一のクラゲの展示数を誇る水族館。

- ⑦ 村上の鮭文化  
(新潟県村上市)

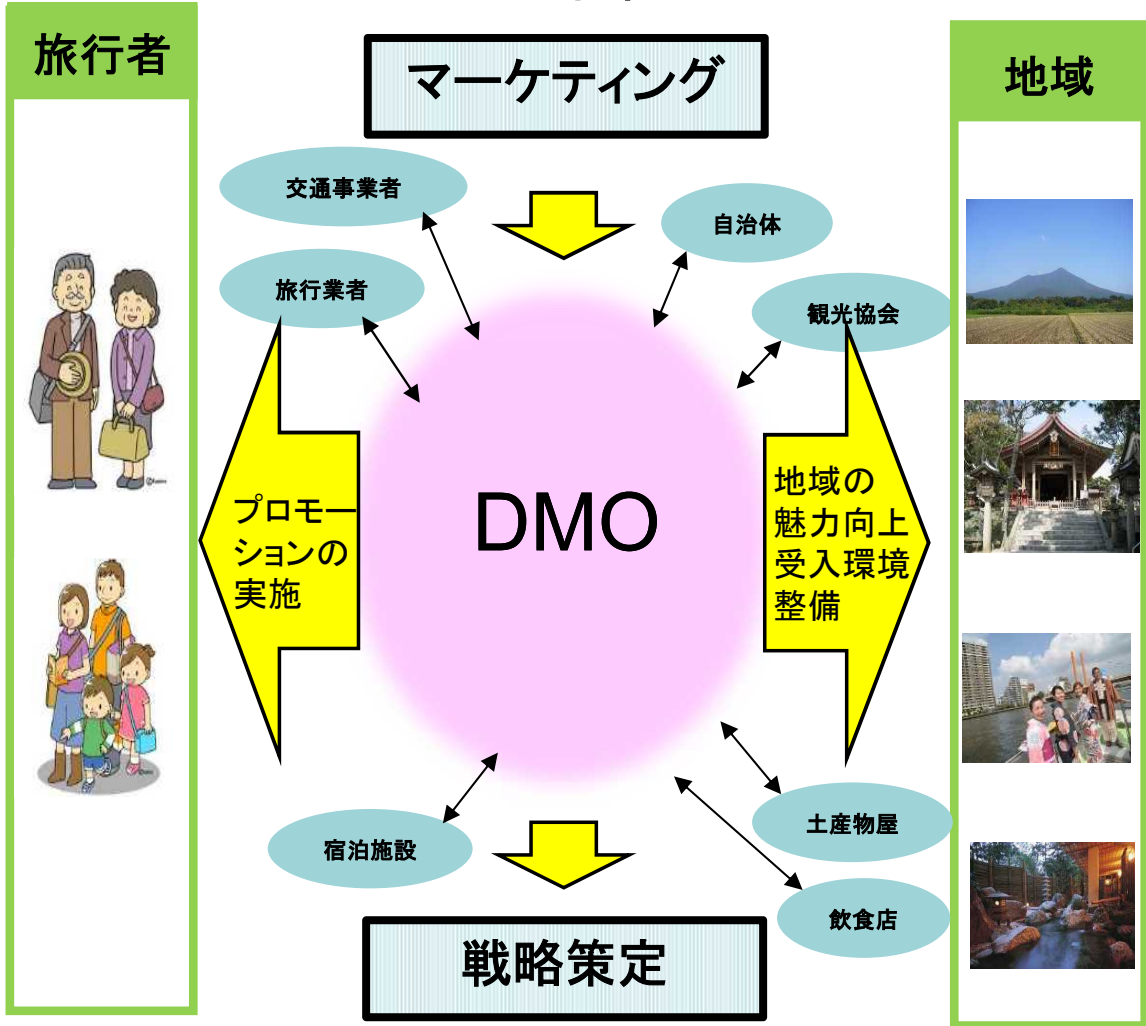


平安時代から鮭が特産として知られ、世界に誇る鮭文化を楽しめる。

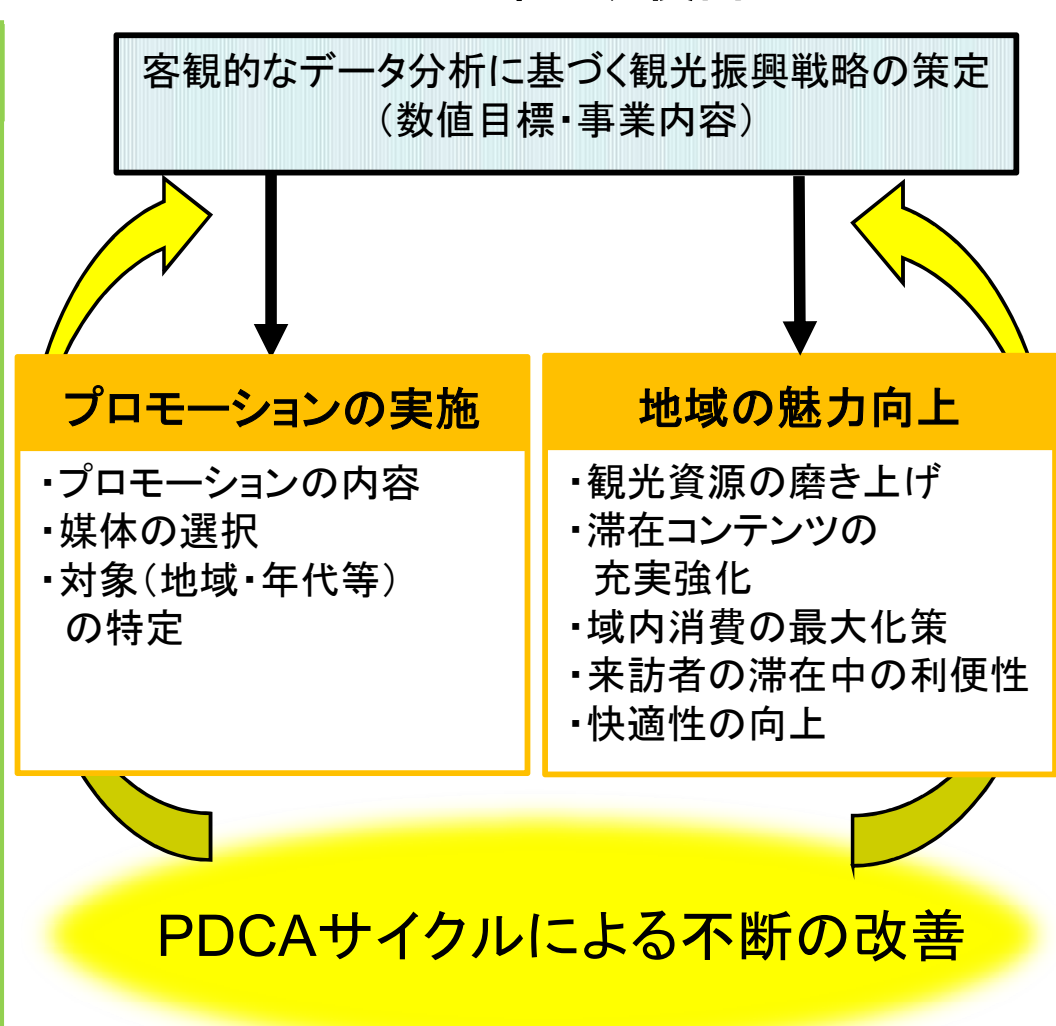


- 「広域連携」、「地域連携」、「地域」の3つのレベルで形成。
- これまでに88団体を登録(うち東北地方は計10団体)。

## <DMOの位置づけ>



## <DMOが果たす役割>



# 地域資源を活用した観光地魅力創造事業

地域の観光資源を世界に通用するレベルまで磨き上げるため、歴史的景観、美しい自然、海洋資源、豊かな農山漁村、魅力ある食文化等の観光資源を活かした地域づくり施策と、体制づくり、受入環境整備、二次交通の充実等の観光振興のための施策を一体で実施する。

様々な地域づくりの取組と連携し、地域の観光資源を世界に通用するレベルまで磨き上げるとともに、外国人の受入環境整備を実施。(関係省庁の施策との一体的実施を推進。)

歴史的景観とバリアフリーの相乗効果による観光振興

世界自然遺産で観光と保護の両立

離島のハンデを克服した観光システムづくり

「農」の優位性を活かした産業と観光の融合

地産から地消までを観光客とともに創りあげる地域

産業遺産を核とした広域連携での観光振興 等

## スケジュール

- 5月 公募開始
- 6月 有識者委員会の開催  
対象地域の決定
- 7月 事業開始

## 観光関係者による取組

協議会：市町村、観光協会、交通事業者、関係行政機関その他地域づくりの取組を実施する者等により構成

計画の策定（数値目標、取組体制、事業内容等）

マーケティングの実施

地域の魅力を高める取組の実施

### ①滞在コンテンツの充実・強化

- ・着地型旅行商品の造成・販売
- ・地産地消の推進
- ・ガイドの育成

### ②来訪需要の喚起

- ・一元的な情報発信／予約システムの構築
- ・宿泊施設の魅力向上
- ・地域版MICEの推進検討

### ③来訪者の利便性等向上

- ・観光案内所の機能強化
- ・観光地周遊バスの実証運行
- ・美観の維持、トイレ改修

### ④外国人受入環境整備

- ・観光案内の多言語表記化
- ・Wi-Fi環境の整備
- ・免税店の導入検討

等

国によるパッケージ支援



## 支援内容

個別事業の実施に必要な経費の総額の2分の1以内の金額を予算の範囲内で負担する。

## 訪日外国人旅行者受入基盤整備・加速化事業 155億円

訪日外国人旅行者数4,000万人、6,000万人の実現に向けて、ハード・ソフト両面からの受入環境整備を通じた訪問時・滞在時の利便性向上を図り、訪日外国人旅行者の受入環境の面的な整備を加速化する。

訪日外国人旅行者受入基盤整備事業  
〈ハード系事業〉

〈具体例〉

観光案内所  
その他観光  
拠点情報・  
交流施設の  
整備・改良



訪日外国人旅行者受入加速化事業  
〈ソフト系事業〉

〈具体例〉

宿泊施設（無線インターネットの整備）  
公共環境の洋式化等



## 地方誘客のための緊急訪日プロモーション 45億円

地方誘客を図るため、日本の各地域が誇る観光資源について、欧米豪や東アジア市場等を対象として、旅行博出展や招請等のプロモーションを集中的に実施する。

### 欧米豪旅行者の地方誘客

#### 欧米豪に対してプロモーションを集中展開

春の旅行シーズンに向けて切れ目ないプロモーションを実施



旅行博出展（米国）



旅行博出展（フランス）



メディア招請（ドイツ）

#### 東アジア各国等に対してプロモーションを集中展開



九州各地にプロガーや旅行会社を招請（中国）

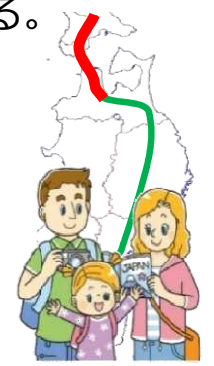
旅行博について九州の魅力積極的にPR（韓国）

## 東北地方へのインバウンド推進による観光復興事業 8億円

地域からの発案に基づき実施されるインバウンドを呼び込む取組を支援し、東日本大震災の影響により大きく落ち込んだ訪日外国人旅行者を回復させ、インバウンド急増の効果を波及させることにより、観光を通じて復興を促進する。

### 東北観光復興対策交付金

東北の観光復興の加速化に向けて、地域からの発案に基づき実施されるインバウンドを呼び込む更なる取組を強力に支援する。



➡ 東北各地の地域資源を効果的に訴求